

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。
授業概要
【基本的に対面】 学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
3	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
4	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
5	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
6	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
7	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
8	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
9	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
10	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
11	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
12	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
13	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
14	【基本的に対面】 具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
15	【基本的に対面】

	具体的に論文を指導し、必要に応じて読むべき先行研究論文の指示を行なう。
16	0
17	0
18	0
19	0
20	0
21	0
22	0
23	0
24	0
25	0
26	0
27	0
28	0
29	0
30	0

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスをを行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標					
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。					
授業概要					
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)		
出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。
授業概要
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスをを行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標					
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。					
授業概要					
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)		
出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標
修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。 そのため各自の芸術分野で調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。
授業概要
本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。 各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野で調査と分析を論理的に行います。 またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得のためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各回、次回までの検討事項を課題とする。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。
授業概要
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標
美学・芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。
授業概要
対面授業 個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1	特になし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業中に紹介または配布する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

[illegible]

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスをを行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標
修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。 そのため各自の芸術分野で調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。
授業概要
本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。 各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野で調査と分析を論理的に行います。 またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得のためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各回、次回までの検討事項を課題とする。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。
授業概要
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標
美学・芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。
授業概要
対面授業 個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各自のテーマについて文献調査を行い、論文作成に向けて努力する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1	特になし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業中に紹介または配布する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスをを行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標
修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。 そのため各自の芸術分野で調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。
授業概要
本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。 各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野で調査と分析を論理的に行います。 またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得のためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各回、次回までの検討事項を課題とする。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。
授業概要
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスをを行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標					
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。					
授業概要					
対面授業。個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)		
出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	安藤 英由樹				
クラス名					

授業目的と到達目標
修士論文の論ずべきターゲットを明確化し精緻な論文を執筆することを目的とします。 そのため各自の芸術分野で調査と分析を論理的に行う方法及び、議論及び記述手法をの習得を到達目標とします。
授業概要
本講義では、各自の研究テーマにあわせて実際にアートサイエンスをテーマとした美術史の研究を進めていきます。 各自の修士論文の論ずべきターゲットを明確化するために、その芸術分野で調査と分析を論理的に行います。 またこのとき、その芸術分野の美術史及び先端芸術の研究のために不可欠な基礎的事項とスキルについて習得のためのトレーニングを行います。具体的には、主要な論点の列挙と解説の議論を行います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各回、次回までの検討事項を課題とする。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
論理的議論	40
複数回の課題レポート	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本演習は美術史の学位論文研究遂行に必要な能力の涵養を目指す。
授業概要
学生の必要に応じて論文執筆を推進する指導を行なう。先行研究論文を輪読し、学術論文における日本語表現の陶冶を目指す。 授業内容は参加者を考慮しながら、適宜変更する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
自らの論文執筆のために、先行研究をしっかりと読んで、構成や文章表現を勉強すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
学生が研究対象のどのような可能性の中心を探ろうとするかを明確化する作業をサポートする。学生に、研究について口頭または文面で論じてもらい、その有効性や意義について共に分析するセッションを実施。その成果を次回にフィードバックさせ、次第に研究の強度を高めてゆく。そのためにも、議論や観点に有用な書物や論文を共同で探る。あるいは、直観的に感動的な作品や現象に魅了される喜びを重視し、その言語化をドライブする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講生各々の問題意識やニーズにあわせて、適宜アドバイスをを行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	芸術学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標					
芸術学の基本的な研究方法を学ぶ。各々の研究テーマを設定し、資料の扱い方、テキストの読解、議論の整理の仕方を習得していく。各自が修士論文を作成・完成することを到達目標とする。					
授業概要					
個々のテーマや項目に関する文献資料(研究書、雑誌論文、辞書項目、インターネット検索等)の調べ方、整理方法、まとめ方を習得する。最終的にはその成果を文章化し、提示するプレゼンテーションの手法を身につけることをめざす。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各自のテーマに沿った文献調査を予め行っておくこと。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	レポート・論文の書き方入門(第4版)		
出版社名	慶應義塾大学出版会	著者名	河野哲也
参考書名2	情報生産者になる(ちくま新書)		
出版社名	筑摩書房	著者名	上野千鶴子
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	絵画特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	西田 真人				
クラス名	前期:西田先生(日本画) 後期:森井先生(油画)				

授業目的と到達目標
授業概要
【前期】前半では共通課題「竹内浩一・〇仔(10号F)」を模写。その間 後半の各自模写手本を決定。5回で各自の関心に応じて1点の模写制作。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
【前期】最初の共通課題で使用する日本画絵の具類は研究室で用意しますが、基底材(F10号麻紙ボード)は受講生で用意してください。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
【前期・後期】課題作品及び総合評価	100

教科書			
教科書1	【前期】制作プロセスのカラー資料 20 枚は研究室で用意		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	【前期】人気作家に学ぶ日本画の技法⑤動物を描く・竹内浩一 1994 年同朋舎出版		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	絵画特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	森井 宏青				
クラス名					

授業目的と到達目標	
授業目的: 私達が無自覚のうちに飲まれゆく、世界のアートや価値観の均質化。その問題とマテリアルはどう関わるのか。 表現により自己確立するうえで、知らねばならない様々な古典技法やマテリアル。基礎知識の習得と演習。 達成目標: 広くアートを構成しうる材料に興味を持ち、自己表現との深い関わりを見出し築くことにより、アイデンティティを獲得する。	
授業概要	
対面授業 「画材とは何か、自己の表現とどうつながるか」を中心とした専門理論の講義。または実際にそれらを活用しての演習。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
アートを構成する、まさに「基底材」となりうる知識の習得が主旨である。なるべく難しい言葉を使わず、興味持てる内容になるよう授業構成されているが、ノートを取らない、居眠りや欠席が多いなど、勤勉さに欠ける学生には受講を認めない。 また、各自で収集、作成するなど、自ら行動する積極性が求められる。 大学院生に恥じない、自覚ある受講態度で臨むこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業態度、姿勢、質疑応答や、演習の結果による総合判定。 理論、知識が豊かに、正確に習得されているか、それらが演習としてのびやかに創作に生かされているか	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
画家 ノルウェー・フィンランド、北欧アーティストコミュニティ・キュレーター。 アートマテリアル研究家 油彩画修復師

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	講義1:各学生のアトリエ訪問から、表現とマテリアルの関わりについて検証する
2	講義2:表現による自己確立とグローバリズム
3	講義3: 支持体とは
4	講義4:有機顔料と無機顔料
5	講義5:白の考察
6	演習1: 独自の支持体を見出すために。油彩画のための理想的支持層とは
7	演習2: 油彩支持体制作①
8	演習3: 油彩支持体制作②
9	演習4: 油彩支持体制作③
10	演習5 独自の支持体を作成する①
11	演習6 独自の支持体を作成する②
12	演習7 独自の支持体を作成する③
13	演習8 独自の支持体を作成する④
14	演習9 独自の支持体を作成する⑤
15	フリーディスカッション

科目名	絵画特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
版画の歴史と版による表現の特色を、作家研究と版画制作等の演習を通して学ぶこと。 様々な版種における版構造、および表現の特色の違いを理解する。
授業概要
対面授業。 現代版画の源は 20 世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。 この授業では、版を表現手段にしてきた作家の研究と様々な版画の制作を通して、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
準備学修として、好きな版画家とその作品について資料を集めておく。 下絵が必要な版画制作の場合は予め準備する。 スケッチブック(クロッキー帳)、刷る紙等は原則持参のこと。銅板は実費が必要。 安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題提出作品・レポート	80
制作・相互鑑賞への姿勢, 授業態度, 授業への貢献度	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
受講人数制限有り。受講希望者は授業初日に出席する事。
教員実務経験
教員が版画作家としての経験を活かし、シルクスクリーン・銅版画等の表現技法を習得させる。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要説明と4版種の説明
2	モノタイプ制作 1
3	モノタイプ制作 2
4	芸術を学ぶ者への問い
5	シルクスクリーン制作－版下作成
6	シルクスクリーン制作－製版
7	シルクスクリーン制作－印刷
8	シルクスクリーン制作－印刷・解版
9	モノタイプ作品・シルクスクリーン作品鑑賞, 合評
10	作家研究資料収集、発表資料準備
11	作家研究－版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 1
12	作家研究－版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 2
13	作家研究－版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 3
14	本学収蔵版画作品(浮世絵等)鑑賞
15	エンボス作品制作
16	銅版画試作－銅版準備、防食材塗布
17	銅版画試作－間接法(描画・腐食)
18	銅版画試作－間接法(アクアチント・スピットバイト・腐食)
19	銅版画試作－印刷
20	銅版画制作－防食材塗布、版下転写
21	銅版画制作－描画
22	銅版画制作－腐食
23	銅版画制作－描画と腐食

24	銅版画制作―試刷1
25	銅版画制作―加筆と腐食
26	銅版画制作―加筆と腐食
27	銅版画制作―試刷2, 修正
28	銅版画制作―本刷
29	銅版画作品鑑賞・合評1
30	銅版画作品鑑賞・合評2, 授業の振り返りとまとめ

科目名	絵画特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標	
版画の歴史と版による表現の特色を、作家研究と版画制作等の演習を通して学ぶこと。 様々な版種における版構造、および表現の特色の違いを理解する。	
授業概要	
対面授業。 現代版画の源は 20 世紀、自画・自刻・自摺りの「創作版画」と共に始まったといえるだろう。 この授業では、版を表現手段にしてきた作家の研究と様々な版画の制作を通して、「版」を使用することの意味や今後の自己の制作上に「版」をどのように生かすことが出来るかを考える機会とする。また相互鑑賞を随時取り入れ、自分の作品への客観的な視点をもてるようにする。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
準備学修として、好きな版画家とその作品について資料を集めておく。 下絵が必要な版画制作の場合は予め準備する。 スケッチブック(クロッキー帳)、刷る紙等は原則持参のこと。銅板は実費が必要。 安全な制作、道具の片付け、作品の適切な保存に努める。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題提出作品・レポート	80
制作・相互鑑賞への姿勢、授業態度、授業への貢献度	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
教員が版画作家としての経験を活かし、シルクスクリーン・銅版画等の表現技法を習得させる。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要説明と4版種の説明
2	モノタイプ制作 1
3	モノタイプ制作 2
4	芸術を学ぶ者への問い
5	シルクスクリーン制作－版下作成
6	シルクスクリーン制作－製版
7	シルクスクリーン制作－印刷
8	シルクスクリーン制作－印刷・解版
9	モノタイプ作品・シルクスクリーン作品鑑賞, 合評
10	作家研究資料収集、発表資料準備
11	作家研究－版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 1
12	作家研究－版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 2
13	作家研究－版画作品の中から関心をもつ作家を選び, 研究発表・協議 3
14	本学収蔵版画作品(浮世絵等)鑑賞
15	エンボス作品制作
16	銅版画試作－銅版準備、防食材塗布
17	銅版画試作－間接法(描画・腐食)
18	銅版画試作－間接法(アクアチント・スピットバイト・腐食)
19	銅版画試作－印刷
20	銅版画制作－防食材塗布、版下転写
21	銅版画制作－描画
22	銅版画制作－腐食
23	銅版画制作－描画と腐食

24	銅版画制作―試刷1
25	銅版画制作―加筆と腐食
26	銅版画制作―加筆と腐食
27	銅版画制作―試刷2, 修正
28	銅版画制作―本刷
29	銅版画作品鑑賞・合評1
30	銅版画作品鑑賞・合評2, 授業の振り返りとまとめ

科目名	彫刻特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	藤木 康成				
クラス名					

授業目的と到達目標
多様な現代彫刻に至る彫刻史上の諸作品を取り上げ、造形性の数々を学び、知り、自身で制作を通じて研究、実践を深める。
授業概要
彫刻史上の代表的な作品について学んだ上、塊材をカービングによる(観察表現)求心的な作品試作へと展開する。 後期は自身で形態を練り上げ「生み出すフォルム」を制作。石膏成型の基礎を習得する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
必要な材料は自身で準備する。実習で使う特殊な道具類は貸し出す。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
作品の完成度と取り組む姿勢。	80
出席状況	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
長年にわたる彫刻作家としての経験や実践を活かし、彫刻制作への興味関心を深めてもらう。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション等
2	塊材を用いた彫刻作品の鑑賞、解説(石彫、木彫)
3	彫刻史(彫刻の誕生~中世)
4	彫刻史(近現代)
5	観察表現で使用するモデル(貝殻)のデッサン
6	デッサンの完成
7	塊材を造るための型枠造り。(石膏液を流し込むための)
8	石膏の歴史、取り扱い方等の解説、及び石膏液の型枠への流し込み。
9	彫りの開始(1)
10	彫り(2)
11	彫り(3)
12	彫り(4)
13	彫り(5)
14	彫り(6)
15	彫り(7)完成
16	複数の条件を満たす「生み出すフォルム」の課題説明。
17	ミニサイズのエスキース造り
18	実作品のスケールで鉛筆デッサン
19	芯棒作り。(垂木、麻ひも、はりがね等で)
20	粘土の準備
21	粘土付け(以下、肉付けと呼ぶ)(1)
22	肉付け(2)
23	肉付け(3)
24	肉付け(4)
25	肉付け(5)
26	肉付けの完成
27	石膏で凹型造り
28	粘土を凹型から抜き、凹型に石膏を張り込む
29	凹型を合体。
30	割り出しと修整。(完成)

科目名	彫刻特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	藤木 康成				
クラス名					

授業目的と到達目標
多様な現代彫刻に至る彫刻史上の諸作品を取り上げ、造形性の数々を学び、知り、自身で制作を通じて研究、実践を深める。
授業概要
彫刻史上の代表的な作品について学んだ上、塊材をカービングによる(観察表現)求心的な作品試作へと展開する。 後期は自身で形態を練り上げ「生み出すフォルム」を制作。石膏成型の基礎を習得する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
必要な材料は自身で準備する。実習で使う特殊な道具類は貸し出す。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
作品の完成度と取り組む姿勢。	80
出席状況	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
長年にわたる彫刻作家としての経験や実践を活かし、彫刻制作への興味関心を深めてもらう。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション等
2	塊材を用いた彫刻作品の鑑賞、解説(石彫、木彫)
3	彫刻史(彫刻の誕生~中世)
4	彫刻史(近現代)
5	観察表現で使用するモデル(貝殻)のデッサン
6	デッサンの完成
7	塊材を造るための型枠造り。(石膏液を流し込むための)
8	石膏の歴史、取り扱い方等の解説、及び石膏液の型枠への流し込み。
9	彫りの開始(1)
10	彫り(2)
11	彫り(3)
12	彫り(4)
13	彫り(5)
14	彫り(6)
15	彫り(7)完成
16	複数の条件を満たす「生み出すフォルム」の課題説明。
17	ミニサイズのエスキース造り
18	実作品のスケールで鉛筆デッサン
19	芯棒作り。(垂木、麻ひも、はりがね等で)
20	粘土の準備
21	粘土付け(以下、肉付けと呼ぶ)(1)
22	肉付け(2)
23	肉付け(3)
24	肉付け(4)
25	肉付け(5)
26	肉付けの完成
27	石膏で凹型造り
28	粘土を凹型から抜き、凹型に石膏を張り込む
29	凹型を合体。
30	割り出しと修整。(完成)

科目名	彫刻特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	○竹屋 修、塚脇 淳				
クラス名					

授業目的と到達目標
学部における基礎的な制作研究をもとに、近・現代芸術における重要な作家についての知識を深める。その作家について意見交換しながら、レポートにまとめる。 また最も魅力的な作品についてそのスケッチと模刻を試みる。
授業概要
各回毎に、指名を受けた作家の調査と作品に対する論評。それを回毎にレポート課題として提出する。その中で最も重要と思われる作品一点について、スケッチとマケットサイズの模刻を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
彫刻作品およびスケッチ	90％
授業に取り組む姿勢	10％

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
彫刻家・愛知県立芸術大学・名古屋芸術大学・広島市立芸術大学・高等学校美術

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業内容の説明と、過去の提出レポートの提示。
2	指定した作家の説明と調査。内容をレポートにまとめて提出。
3	指定作家の調査と研究及びレポート提出。
4	指定作家の調査と研究及びレポートの提出。
5	指定作家の調査と研究及びレポート提出。
6	指定彫刻家の調査と研究及びそのレポート提出。
7	指定彫刻家の調査と研究及びレポート提出。
8	指定された作家の調査及び研究。
9	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
10	特定された作家の調査と研究及びそのレポート。
11	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
12	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
13	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
14	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
15	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
16	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
17	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
18	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
19	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
20	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
21	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
22	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
23	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。スケッチとマケットサイズの模刻の制作。
24	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。 重要作品のスケッチと模刻。
25	指定された作家の調査と研究及びそのレポート。重要な作品のスケッチと模刻。
26	指定された作家のスケッチと模刻
27	指定された作家の代表作のスケッチとマケットサイズの模刻

28	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
29	指定された作家の調査と研究及びそのレポート提出。
30	スケッチとマケットサイズの模刻作品の合評及び授業の総括。

科目名	彫刻特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
学部における基礎的な制作研究をもとに、実際に作品を設置する事をシミュレーションして、広い視野に立った研究を進める事を目的とする。
授業概要
対面授業 都市空間の中に複数設置された彫刻作品及び作者について検証し、彫刻作品の本質的要素と公共性について考える。自身が作者となって設置する仮想作品を具体的にマケットとして提案する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
日常の中の彫刻のある風景を意識する。街中の質の高い彫刻作品を見つける。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
彫刻作品およびスケッチ	90%
授業に取り組む姿勢	10%

教科書			
教科書1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
彫刻家・愛知県立芸術大学・広島市立大学・名古屋芸術大学・高等学校美術

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	市街地に既に設置されている作品について作品及び作者について調査と論評。(その1)
2	市街に既に設置されている作品についての調査。(その2)
3	既に設置されている作品を任意に選択して作品についての検証。(その3)
4	既存の公共作品についての検証と作者についての調査。(その4)
5	市街地に設置されている作品についての調査と検証。(その5)
6	彫刻作品のコンセプトの検討。(その1)
7	彫刻作品のコンセプトの検討。(その2)
8	作品コンセプトの検討。(その3)
9	設置場所の風景のスケッチ。(その1)
10	彫刻設置(仮想)場所の風景スケッチ(その2)
11	設置場所の風景スケッチ(その3)
12	設置場所の風景スケッチ。(その4)
13	設置彫刻作品のデッサンによる検討。(その1)
14	彫刻作品のデッサンによる検討。(その2)
15	設置作品のデッサンによる検討。(その3)
16	設置彫刻作品によるデッサンによる検討。(その4)
17	彫刻素材について研究(その1)
18	公共作品においての素材の研究。(その2)
19	表現素材の多様性についての研究。(その3)
20	自作を設置した状況の風景スケッチ。(その1)
21	設置状況の風景スケッチ。(その2)
22	彫刻作品のマケット(縮小作品)の実制作。(その1)
23	彫刻作品の実制作。(その2)
24	縮小作品の彫刻制作(その3)
25	設置作品のマケットの制作。(その4)
26	マケット作品の実制作。(その5)
27	設置作品の縮小モデルの制作。(その6)
28	設置作品の縮小モデルの完成。(その7)

29	彫刻の公共性と造形性についての検証。
30	仮想モニュメント制作の総括とデッサン及び彫刻作品の講評。

科目名	デザイン特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	大平 弘				
クラス名					

授業目的と到達目標
ビジュアルコミュニケーションを目的としたグラフィックデザインは、メディア・社会環境によって手法や技術が変化します。視覚伝達に必要な知識を学び、独自の視点で編集(収集、整理、構成)し、制作に繋げることを目的にします。感覚的造形表現(各自の習得・研究)とビジュアルコミュニケーションの理解を深めることを目標にします。
授業概要
題材／『本の形』展 ①出品作品の制作 ②『本の形』展告知ポスター作成 ③展覧会計画(プロジェクトラボ project lab)／後期 サイン計画 冊子制作
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各自の研究分野をもとに授業の組み立てをします。制作は各自の感覚的表現から始まるものですが、その視野を広げることは制作を続けるためにとても大切です。美術を含む他造形表現、画材、材料、技法にめをくばり表現の幅を広げるように心がけてください。さらに、多くの展覧会に足を運び、展示方法・会場風景も観察の対象としてください。合わせて「展覧会」に関わるポスター・チラシ、ダイレクトメール、冊子などを収集しておいてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
受講態度・積極的研究参加	50
制作課題による評価	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名1	

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
グラフィックデザイナー

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	●課題説明 ① 課題__『本の形』展出品作品制作 ② 課題__B2 サイズ展覧会告知ポスター ③ 課題__ロゴタイプの制作[プロジェクトラボ project lab PROJECT LAB]
2	資料収集__見つける・調べる 『本の形』展出品作品の形態・材料を探る 形・形態／材質・材料
3	本の試作__検討・深める 形態の提案・検討
4	本の試作__改良・考えをまとめる 形態と効果の検討・改善 [プロジェクトラボ]ロゴタイプ案持参(A4 サイズ)
5	本の試作__改良・考えをまとめる 形態の決定／●実寸サイズの試作プレゼンテーション
6	作品制作(報告)
7	作品制作(報告)
8	作品制作(報告)
9	完成作品制作(報告__検討、●中間プレゼンテーション)
10	完成作品制作(報告__改善)
11	●冊子の完成／プレゼンテーション／合評
12	作品撮影__ポスター素材として作品を見る「この本の造形的特徴はどこにあるのか」

13	●B2 サイズポスターの試作／検討__『本の形』展 B2 サイズポスター／実寸試作(A3 サイズ貼り合わせ可) 画面構成、文字構成、ロゴタイプの検討・改善
14	B2 ポスターの試作／改善__『本の形』展 B2 ポスター／実寸試作(A3 サイズ貼り合わせ可) ロゴタイプ(完成作)・基本データを入れた状態で持参。
15	●B2 サイズポスターの完成__『本の形』展 B2 サイズポスター(ハレバネ貼り／展示)
16	後期●課題説明 ① 課題__会場設営の計画(サイン計画含む) ② 課題__会場配布用__冊子の制作
17	資料収集__見つける・調べる 空間の確認、冊子資料収集
18	冊子の試作__検討 サイズと形態、紙・素材の検討
19	冊子の試作__検討・深める レイアウト案の作成
20	冊子の試作__改良・考えをまとめる レイアウトの確認／●実寸サイズの試作プレゼンテーション
21	作品制作(報告)
22	作品制作(報告)
23	作品制作(報告)
24	完成作品制作(報告__検討、●中間プレゼンテーション)
25	完成作品制作(報告__改善)
26	●冊子の完成／プレゼンテーション／合評
27	提案__会場設営の計画(ガラス面、サイン計画含む)
28	検討__会場設営の計画(ガラス面、サイン計画含む)
29	改善__会場設営の計画(サイン計画含む)
30	●プレゼンテーション ① 課題__『本の形』展出品作品制作 ② 課題__B2 サイズ展覧会告知ポスター ③ 課題__ロゴタイプの制作[プロジェクトラボ project lab PROJECT LAB] ④ 課題__会場設営の計画(サイン計画含む) ⑤ 課題__会場配布用冊子 ①～⑤を A4 ファイルにまとめ提出

科目名	デザイン特殊研究 I	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	大平 弘				
クラス名					

授業目的と到達目標
ビジュアルコミュニケーションを目的としたグラフィックデザインは、メディア・社会環境によって手法や技術が変化します。視覚伝達に必要な知識を学び、独自の視点で編集(収集、整理、構成)し、制作に繋げることを目的にします。感覚的造形表現(各自の習得・研究)とビジュアルコミュニケーションの理解を深めることを目標にします。
授業概要
題材／『本の形』展 ③展覧会計画(プロジェクトラボ project lab)／後期 サイン計画 冊子制作
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各自の研究分野をもとに授業の組み立てをします。制作は各自の感覚的表現から始まるものですが、その視野を広げることは制作を続けるためにとても大切です。美術を含む他造形表現、画材、材料、技法にめをくばり表現の幅を広げるように心がけてください。さらに、多くの展覧会に足を運び、展示方法・会場風景も観察の対象としてください。合わせて「展覧会」に関わるポスター・チラシ、ダイレクトメール、冊子などを収集しておいてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
受講態度・積極的研究参加	50
制作課題による評価	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
グラフィックデザイナー

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	●課題説明 ① 課題__会場設営の計画(サイン計画含む) ② 課題__会場配布用__冊子の制作
2	資料収集__見つける・調べる 空間の確認、冊子資料収集
3	冊子の試作__検討 サイズと形態、紙・素材の検討
4	冊子の試作__検討・深める レイアウト案の作成
5	冊子の試作__改良・考えをまとめる レイアウトの確認／●実寸サイズの試作プレゼンテーション
6	作品制作(報告)
7	作品制作(報告)
8	作品制作(報告)
9	完成作品制作(報告__検討、●中間プレゼンテーション)
10	完成作品制作(報告__改善)
11	●冊子の完成／プレゼンテーション／合評
12	提案__会場設営の計画(ガラス面、サイン計画含む)
13	検討__会場設営の計画(ガラス面、サイン計画含む)
14	改善__会場設営の計画(サイン計画含む)
15	●プレゼンテーション ① 課題__『本の形』展出品作品制作 ② 課題__B2 サイズ展覧会告知ポスター

[illegible]

科目名	デザイン特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標
これからの空間(場)に於ける重要なファクター(要素・要因)を受講者自らが抽出し、そのファクターの「あるべきデザイン論」によって導かれる独創的な空間(場)を提案し、そのデザインプロセスを通して、既成概念に囚われない新たな空間デザイン創出の作法を学ぶ。
授業概要
対面授業 提案する空間(場)の内容(インテリア系や空間演出系など)や表現方法は自由とし、受講者自らの研究課題の確立に役立つことを最優先とする。受講者が望めば研究課題の発表の場も設ける。また、関連した類似コンペ等があれば、それらに応募することも推奨する。また担当教員は、デザイナーとして展示設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	デザイン特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標
これからの空間(場)に於ける重要なファクター(要素・要因)を受講者自らが抽出し、そのファクターの「あるべきデザイン論」によって導かれる独創的な空間(場)を提案し、そのデザインプロセスを通して、既成概念に囚われない新たな空間デザイン創出の作法を学ぶ。
授業概要
対面授業 提案する空間(場)の内容(インテリア系や空間演出系など)や表現方法は自由とし、受講者自らの研究課題の確立に役立つことを最優先とする。受講者が望めば研究課題の発表の場も設ける。また、関連した類似コンペ等があれば、それらに応募することも推奨する。また担当教員は、デザイナーとして展示設計の実務経験を生かし、実践的な場面を想定した指導を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題制作の内容については教員の確認をとること。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出された課題作品及び主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

科目名	デザイン特殊研究Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	道田 健				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
対面授業 大学院での研究テーマに合わせて、調査をまとめ、仮設の検証を行うためのプロトタイプ制作などを実践していく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究内容については教員と相談、確認をとって進めること。毎回の授業には、調べたこと、研究したことを他人に見せる書式にまとめて来ること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
取組みと研究成果を見て総合的に判断します。	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	デザイン特殊研究Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	道田 健				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
大学院での研究テーマに合わせて、調査をまとめ、仮設の検証を行うためのプロトタイプ制作などを実践していく。後期はプロトタイプの制作を通しての検証作業に重点を置く。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究内容については教員と相談、確認をとって進めること。毎回の授業には、調べたこと、研究したことを他人に見せる書式にまとめて来ること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
取組みと研究成果を見て総合的に判断します。	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	写真特殊研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標
【写真集を読む／作る】W・F・H・トルボット『自然の鉛筆』(1844-46)以来、無数の「写真集」が出版されてきました。写真集は今日では、「自立的な芸術形態」として捉えられるようになってきています。前期では、写真と言葉(キャプション／テキスト)の関係についていくつかのワークを重ねながら個々の考察を深めていきます。後期では、前期での経験を踏まえて、写真と言葉の組み合わせによって構成される写真集の制作(および制作レポートの作成)に取り組みます。
授業概要
前期は具体的にいくつかの写真集を手にとってもらいながら双方向的に授業を進めます。積極的にディスカッションや合評に参加・介入してください。また、いくつかの具体的な課題を出しますので、自由な発想で取り組んでください。後期は、各人のテーマにしたがって、また各人の専門的なスキルも活かしながら写真集の制作を進めていきます。新しい試みに挑む機会にしてほしいと思います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
写真や製本に関する専門的な知識やスキルを前提とする授業ではありません。課題には積極的に取り組んでください。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり(特に後期)、受講生の関心等に応じて変更する場合があります。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点(授業への貢献度)	40
授業内口頭発表	30
最終課題	30

教科書			
教科書1	授業中に適宜プリント等を配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『自然の鉛筆』		
出版社名	赤々舎	著者名	W・H・F・トルボット／青山勝(訳)
参考書名2	The Photobook in Art and Society		
出版社名	Jovis	著者名	

参考書名3	さすらい		
出版社名	さすらい	著者名	レイモン・ドゥパルドン／青山勝(訳)
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
授業計画は暫定的なものであり、受講学生の関心等に応じて内容や順番を変更する場合がある。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション:写真集(Photobook)とは？ 写真集をめぐる現在の状況とは？
2	ケーススタディ① トルボット『自然の鉛筆』 「写真集」の誕生
3	ケーススタディ② アンリ・カルティエ＝ブレッソン『かすめ取られたイメージ』 「自立的な芸術形態」としての「写真集」
4	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)①
5	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)②
6	ケーススタディ③ 山沢栄子『遠近』、東松照明『太陽の鉛筆』他
7	ケーススタディ④ レイモン・ドゥパルドン『さすらい』他
8	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する①
9	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する②
10	ケーススタディ⑤(内容は受講生の関心に応じて決定する)
11	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る①
12	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る②
13	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る③
14	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る④
15	前半の授業全体の振り返り(および夏期休暇中の課題の確認)
16	後半の授業にむけての再導入(各自の写真集制作の計画を確認する)
17	ケーススタディ⑥(内容は受講生の関心に応じて決定する)
18	ケーススタディ⑦(内容は受講生の関心に応じて決定する)
19	ケーススタディ⑧(内容は受講生の関心に応じて決定する)
20	中間発表・合評①
21	中間発表・合評②
22	中間発表・合評③

23	中間発表・合評④
24	写真集制作①
25	写真集制作②
26	写真集制作③
27	写真集制作④
28	制作レポート作成①
29	制作レポート作成②
30	全体の振り返りとまとめ

科目名	写真特殊研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標
【写真集を読む／作る】W・F・H・トルボット『自然の鉛筆』(1844-46)以来、無数の「写真集」が出版されてきました。写真集は今日では、「自立的な芸術形態」として捉えられるようになってきています。前期では、写真と言葉(キャプション／テキスト)の関係についていくつかのワークを重ねながら個々の考察を深めていきます。後期では、前期での経験を踏まえて、写真と言葉の組み合わせによって構成される写真集の制作(および制作レポートの作成)に取り組みます。
授業概要
前期は具体的にいくつかの写真集を手にとってもらいながら双方向的に授業を進めます。積極的にディスカッションに参加・介入してください。また、いくつかの具体的な課題を出しますので、自由な発想で取り組んでください。後期は、各人のテーマにしたがって、また各人の専門的なスキルも活かしながら写真集の制作を進めていきます。新しい試みに挑む機会にしてほしいと思います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
写真や製本に関する専門的な知識やスキルを前提とする授業ではありません。課題には積極的に取り組んでください。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり(特に後期)、受講生の関心等に応じて変更する場合があります。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	40
授業内口頭発表	30
最終レポート	30

教科書			
教科書1	授業中に適宜プリント等を配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『自然の鉛筆』		
出版社名	赤々舎	著者名	W・H・F・トルボット／青山勝(訳)
参考書名2	The Photobook in Art and Society		
出版社名	Jovis	著者名	

参考書名3	さすらい		
出版社名	さすらい	著者名	レイモン・ドゥパルドン／青山勝(訳)
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
授業計画は暫定的なものであり、受講学生の関心等に応じて内容や順番を変更する場合がある。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション:写真集(Photobook)とは？ 写真集をめぐる現在の状況とは？
2	ケーススタディ① トルボット『自然の鉛筆』 「写真集」の誕生
3	ケーススタディ② アンリ・カルティエ＝ブレッソン『かすめ取られたイメージ』 「自立的な芸術形態」としての「写真集」
4	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)①
5	〈第1課題〉自分が選んだ1枚の写真について記述する(タイトルとテキスト)②
6	ケーススタディ③ 山沢栄子『遠近』、東松照明『太陽の鉛筆』他
7	ケーススタディ④ レイモン・ドゥパルドン『さすらい』他
8	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する①
9	〈第2課題〉与えられた写真とキャプションをもとにテキストを執筆する②
10	ケーススタディ⑤(内容は受講生の関心に応じて決定する)
11	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る①
12	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る②
13	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る③
14	〈第3課題〉複数の写真を使ってシークエンスを作り、物語を語る④
15	前半の授業全体の振り返り(および夏期休暇中の課題の確認)
16	後半の授業にむけての再導入(各自の写真集制作の計画を確認する)
17	ケーススタディ⑥(内容は受講生の関心に応じて決定する)
18	ケーススタディ⑦(内容は受講生の関心に応じて決定する)
19	ケーススタディ⑧(内容は受講生の関心に応じて決定する)
20	中間発表・合評①
21	中間発表・合評②
22	中間発表・合評③

23	中間発表・合評④
24	写真集制作①
25	写真集制作②
26	写真集制作③
27	写真集制作④
28	制作レポート作成①
29	制作レポート作成②
30	全体の振り返りとまとめ

科目名	芸術学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	片岡 淳				
クラス名					

授業目的と到達目標	
美術・工芸等各芸術表現・研究の立場から、課題研究の構築と体系化を通して、研究を深める。芸術・作品・研究とは、購読・簡単な実習を通して理解を深める。	
授業概要	
空間芸術表現(美術工芸・染織)を手がかりに論及していく。紙や糸などの素材と、簡単な道具による演習を行ない、理解を深めていく。定義や原理の理解にも簡単な演習を行なう。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
各自の分野の作家と作品を調べておいてください。 シラバスは進度と受講生の取り組みでその都度変わります。 予めあるいは事後でも欠席理由をお知らせください。公欠に出来ます。 受講は履修期間調整中に必ずおこなって下さい。途中から受講しないようにならないように必ず最初の授業を体験して下さい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
受講姿勢	50
レポート・提出作品・積極性	50

教科書			
教科書1	コピーを必要に応じて配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	芸術学		
出版社名	東京大学出版局	著者名	渡辺 護
参考書名2	臨床する芸術学		
出版社名	昭和堂	著者名	小林昌廣

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
レポートまたは演習を課します。海外の論文のレビュー依頼を受けているので、その経験をもとにジャーナルへの投稿など知識や情報を指導する。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本時科目について、シラバスをもとに講義のガイダンスを行なう。「芸術」とは、「作品」とは、「研究」とは。 受講生の専門分野の紹介。
2	芸術の分野 「空間」と「時間」
3	芸術・アートとは何か。 表現したものは、すべてアートか。
4	歴史と特色 明治にできたことば。
5	芸術の分野と分類 分類を通して、分野を理解する。
6	日本文化の特色。 「道」と「芸」
7	系統立てる。
8	各自の研究分野・姿勢のキーワードの抽出
9	分類の発表
10	原理の理解
11	モノ派の演習 1 素材の特色を引き出すとは。
12	作品とは。
13	作品とは。
14	批評とは。 ディベート法による討論の試み。
15	前期総括

	「作品とはなにか」、一人の作家の変遷・作品について批評しなさい。
16	レポートの発表と講評 講評の仕方「すべて否定的発言」・「すべて肯定的発言」と受け手の反応
17	作品の成立条件について
18	演習 2
19	提出と講評
20	分類はそもそも可能か。
21	行為と記録
22	ものの理解
23	美とは
24	表現したものは、アートになり得るか。
25	研究とは たとえば、西洋絵画には影が描かれるが、日本画は描かないのはなぜか。
26	作家について 関心のある作家の本を手がかりに、制作と背景について考える。
27	作家について
28	各自の制作・研究分野組織表づくり
29	各自の制作・研究分野組織表づくり・発表
30	総括

科目名	芸術学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標
日本の近代詩と近代彫刻を代表する高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じる。あわせて彫刻をめぐる様々な問題について考察し理解を深める。
授業概要
高村光太郎は詩人として有名だが、日本の近代彫刻を代表する彫刻家である。彼は詩作や彫刻制作と並行して夥しい評論を執筆し、彫刻と詩は言うまでもなく、ひろく美術、文芸、芸術全般について論じている。授業では高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じるとともに、彫刻の本質、彫刻と詩との関係、さらに日本における西洋彫刻の受容など、彫刻をめぐる様々な問題について考察する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業内容を参考にして、自分自身の経験を踏まえて、あるいは想像力を働かせて、授業で取り上げるテーマについて、自分の思ったこと考えたことを言葉にする努力をしてほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	50
レポート	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに
2	高村光太郎の略歴について
3	高村光太郎と父高村光雲との関係について論じる。高村光雲は江戸生まれの仏師だが、後に東京美術学校の教授となり、近代日本を代表する木彫家となった。光雲と光太郎の関係は複雑であり、いわゆる父子関係という問題だけではなく、明治という一大変革期において、いわゆる美術は全体としてどのように変わってゆくのかという大きな問題と深く関わっている。 光雲と光太郎の関係を手がかりにして、職人的制作と芸術家的制作との関係、徒弟修業と美術学校教育との関係、そして伝統的な日本彫刻と、明治になって日本に移入された西洋彫刻との関係に
4	前回の続き。
5	前回の続き。
6	前回の続き。
7	前回の続き。
8	前回の続き。
9	前回の続き。
10	前回の続き。
11	高村光太郎とロダンとの関係について論じる。明治以降の日本の近代彫刻はロダンの著しい影響下に展開した。光太郎はロダンの作風と思想を日本に紹介した立役者の一人である。ロダンの圧倒的な影響下にあった光太郎は、やがてロダンとの違い、隔たりを意識することになる。光太郎とロダンとの関係は明治以降における日本と西洋との関係、さらには東洋と西洋における世界観・人間観の違いに深く関わっている。
12	前回の続き。
13	前回の続き。
14	前回の続き。
15	前回の続き。
16	高村光太郎の彫刻論について論じる。光太郎は生涯にわたって彫刻を論じ続けた。彫刻の本質、歴史、技法、作家論等、彫刻に関するあらゆるテーマについて、彼ほど執拗に徹底的に論じた人は少ない。彼にとって彫刻を論じることは単に理論上のことばかりでなく、鑑賞と制作の両面にわたる体験を積み重ねることで形成されてゆく自らの彫

	刻観を思索と言語を通じて明確にし普遍化しようとする不断の試みであった。
17	前回の続き。
18	前回の続き。
19	前回の続き。
20	前回の続き。
21	前回の続き。
22	前回の続き。
23	前回の続き。
24	前回の続き。
25	高村光太郎における彫刻と詩との関係について論じる。とくに彫刻制作および彫刻作品を直接テーマとした詩を取り上げる。
26	前回の続き。
27	前回の続き。
28	前回の続き。
29	前回の続き。
30	むすび

科目名	芸術学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	片岡 淳				
クラス名					

授業目的と到達目標	
美術・工芸等各芸術表現・研究の立場から、課題研究の構築と体系化を通して、研究を深める。芸術・作品・研究とは、購読・簡単な実習を通して理解を深める。	
授業概要	
対面授業。ただし、状況により遠隔に変更あり。変更が発生した場合、速やかに掲示登録する。 空間芸術表現(美術工芸・染織)を手がかりに論及していく。紙や糸などの素材と、簡単な道具による演習を行ない、理解を深めていく。定義や原理の理解にも簡単な演習を行なう。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
各自の分野の作家と作品を調べておいてください。 シラバスは進度と受講生の取り組みでその都度変わります。 予めあるいは事後でも欠席理由をお知らせください。公欠に出来ます。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
受講姿勢	50
レポート・提出作品・積極性	50

教科書			
教科書1	コピーを必要に応じて配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	芸術学		
出版社名	東京大学出版局	著者名	渡辺 護
参考書名2	臨床する芸術学		
出版社名	昭和堂	著者名	小林昌廣

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
レポートまたは演習を課します。海外の論文のレビュー依頼を受けているので、その経験をもとにジャーナルへの投稿など知識や情報を指導する。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本時科目について、シラバスをもとに講義のガイダンスを行なう。「芸術」とは、「作品」とは、「研究」とは。 受講生の専門分野の紹介。
2	芸術の分野 「空間」と「時間」
3	芸術・アートとは何か。 表現したものは、すべてアートか。
4	歴史と特色 明治にできたことば。
5	芸術の分野と分類 分類を通して、分野を理解する。
6	日本文化の特色。 「道」と「芸」
7	系統立てる。
8	各自の研究分野・姿勢のキーワードの抽出
9	分類の発表
10	原理の理解
11	モノ派の演習 1 素材の特色を引き出すとは。
12	作品とは。
13	作品とは。
14	批評とは。 ディベート法による討論の試み。
15	前期総括

	「作品とはなにか」、一人の作家の変遷・作品について批評しなさい。
16	レポートの発表と講評 講評の仕方「すべて否定的発言」・「すべて肯定的発言」と受け手の反応
17	作品の成立条件について
18	演習 2
19	提出と講評
20	分類はそもそも可能か。
21	行為と記録
22	ものの理解
23	美とは
24	表現したものは、アートになり得るか。
25	研究とは たとえば、西洋絵画には影が描かれるが、日本画は描かないのはなぜか。
26	作家について 関心のある作家の本を手がかりに、制作と背景について考える。
27	作家について
28	各自の制作・研究分野組織表づくり
29	各自の制作・研究分野組織表づくり・発表
30	総括

科目名	芸術学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					

授業目的と到達目標
日本の近代詩と近代彫刻を代表する高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じる。あわせて彫刻をめぐる様々な問題について考察し理解を深める。
授業概要
高村光太郎は詩人として有名だが、日本の近代彫刻を代表する彫刻家である。彼は詩作や彫刻制作と並行して夥しい評論を執筆し、彫刻と詩は言うまでもなく、ひろく美術、文芸、芸術全般について論じている。授業では高村光太郎の彫刻と詩と評論について論じるとともに、彫刻の本質、彫刻と詩との関係、さらに日本における西洋彫刻の受容など、彫刻をめぐる様々な問題について考察する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業内容を参考にして、自分自身の経験を踏まえて、あるいは想像力を働かせて、授業で取り上げるテーマについて、自分の思ったこと考えたことを言葉にする努力をしてほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	50
レポート	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに
2	高村光太郎の略歴について
3	高村光太郎と父高村光雲との関係について論じる。高村光雲は江戸生まれの仏師だが、後に東京美術学校の教授となり、近代日本を代表する木彫家となった。光雲と光太郎の関係は複雑であり、いわゆる父子関係という問題だけではなく、明治という一大変革期において、いわゆる美術は全体としてどのように変わってゆくのかという大きな問題と深く関わっている。 光雲と光太郎の関係を手がかりにして、職人的制作と芸術家的制作との関係、徒弟修業と美術学校教育との関係、そして伝統的な日本彫刻と、明治になって日本に移入された西洋彫刻との関係に
4	前回の続き。
5	前回の続き。
6	前回の続き。
7	前回の続き。
8	前回の続き。
9	前回の続き。
10	前回の続き。
11	高村光太郎とロダンとの関係について論じる。明治以降の日本の近代彫刻はロダンの著しい影響下に展開した。光太郎はロダンの作風と思想を日本に紹介した立役者の一人である。ロダンの圧倒的な影響下にあった光太郎は、やがてロダンとの違い、隔たりを意識することになる。光太郎とロダンとの関係は明治以降における日本と西洋との関係、さらには東洋と西洋における世界観・人間観の違いに深く関わっている。
12	前回の続き。
13	前回の続き。
14	前回の続き。
15	前回の続き。
16	高村光太郎の彫刻論について論じる。光太郎は生涯にわたって彫刻を論じ続けた。彫刻の本質、歴史、技法、作家論等、彫刻に関するあらゆるテーマについて、彼ほど執拗に徹底的に論じた人は少ない。彼にとって彫刻を論じることは単に理論上のことばかりでなく、鑑賞と制作の両面にわたる体験を積み重ねることで形成されてゆく自らの彫

	刻観を思索と言語を通じて明確にし普遍化しようとする不断の試みであった。
17	前回の続き。
18	前回の続き。
19	前回の続き。
20	前回の続き。
21	前回の続き。
22	前回の続き。
23	前回の続き。
24	前回の続き。
25	高村光太郎における彫刻と詩との関係について論じる。とくに彫刻制作および彫刻作品を直接テーマとした詩を取り上げる。
26	前回の続き。
27	前回の続き。
28	前回の続き。
29	前回の続き。
30	むすび

科目名	美学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					

授業目的と到達目標	
一般には誤解されることが多い「美学」という学問がじっさいにはどのようなものであるのかをその歴史的展開のなかで理解することを目的とする。芸術にたずさわる大学院生として、美学の正確な意味を他人に伝えることができるようになることを目指したい。	
授業概要	
第 2 回から第 14 回まで各回ごとに美学史上の古典的な文献を採りあげて、内容紹介と検討を行う。具体的には、古代ギリシアや近代欧米の美学者たちによる著作を概観する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
講義までに授業資料として提示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに自らの制作や研究課題に直結する問題意識とともに理解すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点 (授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)	100%

教科書			
教科書 1	UNIPA 経由で事前にプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	『美学の事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編
参考書名 2	『西洋美学史』		
出版社名	東京大学出版会	著者名	小田部胤久
参考書名 3	『美の変貌』		

出版社名	『美の変貌』	著者名	当津武彦編
参考書名4	『西洋美学のエッセンス』		
出版社名	ベリかん社	著者名	今道友信編
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
関西学院大学 大学博物館長(2020/21 年度)

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	04/10 講義の概要説明と受講者の自己紹介
2	04/17 古代ギリシャの美学 プラトン『パイドロス』『国家』
3	04/24 古代ギリシャの美学 アリストテレス『詩学』
4	05/01 美学の成立 バウムガルテン『美学』
5	05/08 美学の成立 カント『判断力批判』(その 1)
6	05/15 美学の成立 カント『判断力批判』(その 2)
7	05/22 美学の展開 ヴィンケルマン『ギリシャ美術模倣論』『古代美術史』
8	05/29 美学の展開 レッシング『ラオコオン』
9	06/05 近代美学の完成 ヘーゲル『美学講義』
10	06/12 近代美学の完成 ニーチェ『音楽の精髓からの悲劇の誕生』
11	06/19 20 世紀前半の美学 ハイデッガー『芸術作品の根源』
12	06/26 20 世紀前半の美学 ベンヤミン『複製が可能になった時代の芸術作品』
13	07/03 20 世紀後半の美学 エーコ『開かれた作品』
14	07/10 20 世紀後半の美学 ダントー『ありふれたものの変容』
15	07/24 まとめと質問 21 世紀の美学 伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』
16	09/11 日本における制度としての美学と日本の美意識の展開
17	09/25 西周『美妙学説』と中江兆民『維氏美学』
18	10/02 フェノロサ『美術真説』と岡倉覚三「日本美術史」
19	10/10(火) 森林太郎「審美論」と夏目漱石『文学論』
20	10/16 ハーン『日本の面影』
21	10/23 岡倉覚三『茶の本』
22	10/30 柳宗悦『雑器の美』
23	11/13 和辻哲郎『風土』『古寺巡礼』
24	11/20 九鬼周造『「いき」の構造』
25	11/27 谷崎潤一郎『陰翳礼賛』

26	12/04 タウト『日本の家屋と生活』
27	12/11 岸田劉生『美の本体』
28	12/18 矢代幸雄『日本美術の特質』
29	01/15 岡本太郎『日本の伝統』
30	01/22 四方田犬彦『「かわいい」論』

科目名	美学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					

授業目的と到達目標
一般には誤解されることが多い「美学」という学問がじっさいにはどのようなものであるのかを理解できるようになることを目的とする。芸術にたずさわる大学院生として、美学の正確な意味とその現代的課題を他人に伝えることができるようになることを目指したい。
授業概要
第 2 回から第 14 回まで各回ごとに近代日本における美学史上の古典的な文献を採りあげて、内容紹介と検討を行う。具体的には、明治初期から 1950 年代に至るまでの哲学者や芸術家たちによる著作の内容を毎回概観する。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
講義までに授業資料として提示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに自らの制作や研究課題に直結する問題意識とともに理解すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点 (授業内容への理解、ディスカッションへの積極的参加、質問への解答など)	100%

教科書			
教科書 1	UNIPA 経由で事前にプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	『美学の事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編
参考書名 2	『東西芸術精神の伝統と交流』		
出版社名	理想社	著者名	山本正男
参考書名 3	『敗者の精神史』		

科目名	芸術学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					

授業目的と到達目標	
芸術を制作することとも楽しむこととも異なる、芸術を「学ぶ」ということについて包括的な理解を得ることを講義の目的とする。本講義で得られた知見を各自の作品制作や批評活動に活かすとともに、受講生が、芸術を学ぶ大学院生として、自らの立脚点を自覚できるようになることを目指したい。	
授業概要	
現在の意味での「芸術」が成立し、大きく展開した「近代」における諸ジャンル(とくに建築と絵画)の動向を画像とテキストの資料から明らかにする。全体は大きく 5 つに分かれ、それぞれ(A)近代芸術の成立、(B)世紀末芸術、(C)革命期、(D)不安期、(E)戦後の芸術に注目して、その意義についての討論を行う。なお下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
講義開始の前に指示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに問題意識とともに理解するようにすること。また、機会があれば、美術館における作品展示を見たり、多様なジャンルの芸術を積極的に体験するようにしておくこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	100%

教科書			
教科書1	UNIPA 経由で事前に授業資料を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『美学の事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編
参考書名2	『鉄道旅行の歴史』		
出版社名	法政大学出版局	著者名	シヴェルブシュ

参考書名3	『世紀末芸術』		
出版社名	『世紀末芸術』	著者名	高階秀爾
参考書名4	『近代絵画史 ゴヤからモンドリアンまで』		
出版社名	中央公論社	著者名	高階秀爾
参考書名5	『近代芸術の革命』		
出版社名	美術出版社	著者名	ゼーデルマイヤ

参考 URL
特記事項
教員実務経験
関西学院大学博物館長(2020-21 年度)

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	04/10 講義の概要説明と受講者の自己紹介、A ◎概説 シヴェルブシュ『鉄道旅行の歴史』
2	04/17 A 建築デザイン 近代建築の成立 バクストン「水晶宮」
3	04/24 A 絵画 印象主義 モネ/ルノワール《ラ・グルニエールにて》
4	05/01 B ◎概説 ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』
5	05/08 B 建築デザイン アールヌーヴォー オルタ「タッセル邸」
6	05/15 B 絵画 ポスト印象主義 セザンヌ《サントヴィクトワール山》
7	05/22 C ◎概説 ヴァレリー/ブレモン「純粹詩」について
8	05/29 C 建築デザイン アールデコ 装飾美術展
9	06/05 C 絵画 抽象絵画の成立 ピカソと絵画の「抽象化」
10	06/12 D ◎概説 ブルトン『シュルレアリスム宣言』
11	06/19 D 建築デザイン 新古典主義と帝冠様式 神殿と城
12	06/26 D 絵画 エコール・ド・パリとシュルレアリスム デュシャン《泉》
13	07/03 E ◎概説 グリーンバーグ『モダニズムの芸術』
14	07/10 E 建築デザイン 四巨匠と戦後復興 ミースと国際様式
15	07/24 E 絵画 抽象表現主義とポップアート、アンフォルメル
16	09/11 ◎近代からポスト近代(現代)へ
17	09/25 建築デザイン ジェンクス『ポストモダニズムの建築言語』
18	10/02 建築デザイン ヴェンチュリ『建築における対立と複合性』
19	10/10(火)建築デザイン ライトとル・コルビュジエの戦後
20	10/16 ◎近代芸術から現代アートへ
21	10/23 パフォーマンスとインスタレーション ボイス、オノヨーコ、朴南準
22	10/30 パブリックアート 芸術祭と観光、アートの経営と地域振興
23	11/13 メディアアート マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』
24	11/20 トランスナショナル サイード『オリエンタリズム』

25	11/27 ジェンダー ポロック『視線と差異』
26	12/04 ◎21 世紀のアート戦略
27	12/11 建築とデザイン 脱構築主義とバナキュラー
28	12/18 社会連携(SEA) ウェルビーイングとエシックス
29	01/15 NFT オリジナルとアウラ
30	01/22 表現主体の匿名化と集団化 バンクシーとアクティヴィズム

科目名	芸術学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
美学・芸術学の主要トピックに関する基本的な研究方法を学び、それらについて複数の角度から考察する力を養う。 その上で各自の関心にもとづく論の組み立て方とプレゼンテーションの仕方を身につける。	
授業概要	
対面授業 通常は「美」と対比される「崇高」と「醜」について考察する。 まず古代ギリシア以来の「崇高」への憧憬から近・現代の「崇高」論までの流れをその事例を含めて辿る。さらに近世以降の「グロテスク」、「ゴシック」的なもの、「不気味」なものの事例やそれらをめぐる思想を跡づけ、「美」よりもむしろ「醜」のインパクトを強調しようとする芸術の傾向について考察する。 後期後半は各自の発表とディスカッションを中心に進めていく。なお、受講者の関心に応じて授業計画は変更する可能性がある。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
配布する資料についての予習・復習を必要とする。 受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書			
教科書1	授業中に指示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	美学 ジェンダーの視点から[>>		

	,http://lib-op2.osaka-geidai.ac.jp/opac/opac_link/bibid/6000610728}		
出版社名	三元社	著者名	C. コースマイヤー
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	導入
2	崇高論の展開①
3	崇高論の展開②
4	崇高論の展開③
5	崇高論の展開④
6	近・現代の崇高①
7	近・現代の崇高②
8	近・現代の崇高③
9	グロテスク①
10	グロテスク②
11	グロテスク③
12	ゴシック①
13	ゴシック②
14	ゴシック③
15	前期のまとめ
16	不気味なもの①
17	不気味なもの②
18	不気味なもの③
19	醜の美学①
20	醜の美学②
21	醜の美学③
22	醜の美学④

23	醜の美学⑤
24	各自の発表とディスカッション①
25	各自の発表とディスカッション②
26	各自の発表とディスカッション③
27	各自の発表とディスカッション④
28	各自の発表とディスカッション⑤
29	各自の発表とディスカッション⑥
30	後期のまとめ

科目名	芸術学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	加藤 哲弘				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代美術における古典的作品と現代美術を論じる古典的な批評言説についての基本的な理解を得ることを目的とする。本講義で得られた知見を各自の作品制作や批評活動に活かすとともに、受講生が、芸術を学ぶ大学院生として、自らの立脚点を自覚できるようになることを目指したい。
授業概要
20 世紀末から 21 世紀の現在に至るまでのアートの展開の中から古典的と呼ばれる作品を採りあげ、その紹介と討論を行う。基本的にはテキスト(日本語訳)の講読と討論を通して、現代アートを論じる際に念頭に置いておくべき基礎的な文献の解題を行う。なお、下記の授業計画は暫定的なものであり、受講学生の興味に応じて変更する場合がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
講義までに指示する参考文献を読んでおくこと。授業内容を知識として暗記するのではなく、つねに問題意識とともに理解するようにすること。また、機会があれば、ビエンナーレや国際展などの現代アートの展覧会を訪れたり、美術館における作品展示を見たりしておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	100％

教科書			
教科書1	UNIPA 経由で授業資料を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『美学の事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	美学会編
参考書名2	『現代美術史 欧米、日本、トランスナショナル』		
出版社名	中央公論新社	著者名	山本浩貴
参考書名3	『20 世紀美術』		

科目名	芸術学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
美学・芸術学の主要トピックに関する基本的な研究方法を学び、それらについて複数の角度から考察する力を養う。 その上で各自の関心にもとづく論の組み立て方とプレゼンテーションの仕方を身につける。	
授業概要	
対面授業 通常は「美」と対比される「崇高」と「醜」について考察する。 まず古代ギリシア以来の「崇高」への憧憬から近・現代の「崇高」論までの流れをその事例を含めて辿る。さらに近世以降の「グロテスク」、「ゴシック」的なもの、「不気味」なものの事例やそれらをめぐる思想を跡づけ、「美」よりもむしろ「醜」のインパクトを強調しようとする芸術の傾向について考察する。 後期後半は各自の発表とディスカッションを中心に進めていく。なお、受講者の関心に応じて授業計画は変更する可能性がある。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
配布する資料についての予習・復習を必要とする。 受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書			
教科書1	授業中に提示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2	美学 ジェンダーの視点から[>>		

科目名	美術史学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					

授業目的と到達目標
鎌倉時代末に兼好法師が著した『徒然草』は『枕草子』『方丈記』とともに随筆の名作として知られています。『徒然草』を主題にして江戸時代に描いた「徒然草図」の屏風や絵巻などを取り挙げます。「徒然草図」に描かれた章段を順次読み解いていきます。作品の構図や表現などを通して、随筆の絵画化について考えることを目的にします。
授業概要
現存する徒然草図で既に作品調査を終えた屏風、絵巻など取り扱います。調査時に収集した画像を使いながら、絵師の目指した表現の意図を考えたいと思います。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
機会を見つけて展覧会に出かけ、授業に関連する作品以外のにも広く目を向けたり、関連する書物を読むなどして、さまざまな事物に対して関心の輪を広げてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
レポート(課題)	60
平常の授業態度 1(質疑応答など)	20
平常の授業態度 2(出席状況など)	20

教科書			
教科書1	使用しません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『徒然草』全注釈 1～4		
出版社名	講談社学術文庫	著者名	三木紀人
参考書名2	『徒然草全注釈』上・下		
出版社名	角川書店	著者名	安良岡康作
参考書名3	『絵巻で見る・読む徒然草』		
出版社名	『絵巻で見る・読む徒然草』	著者名	島内裕子ほか
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	『徒然草』の概要
2	「徒然草図」の諸作の概要
3	『徒然草』の絵画化と『なぐさみ草』
4	「徒然草図屏風 右隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 1
5	「徒然草図屏風 右隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 2
6	「徒然草図屏風 右隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 3
7	「徒然草図屏風 右隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 4
8	「徒然草図屏風 左隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 1
9	「徒然草図屏風 左隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 2
10	「徒然草図屏風 左隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 3
11	「徒然草図屏風 左隻」(メトロポリタン美術館寄託個人蔵)の読み取り 4
12	「徒然草図屏風 右隻」(上杉博物館蔵)の読み取り 1
13	「徒然草図屏風 右隻」(上杉博物館蔵)の読み取り 2
14	「徒然草図屏風 左隻」(上杉博物館蔵)の読み取り 1
15	「徒然草図屏風 左隻」(上杉博物館蔵)の読み取り 2
16	伝住吉如慶筆「徒然草下絵」上巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の読み取り 1
17	伝住吉如慶筆「徒然草下絵」上巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の読み取り 2
18	伝住吉如慶筆「徒然草下絵」中巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の読み取り 3
19	伝住吉如慶筆「徒然草下絵」中巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の読み取り 4
20	伝住吉如慶筆「徒然草下絵」下巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の読み取り 5
21	伝住吉如慶筆「徒然草下絵」下巻(和泉市久保惣記念美術館蔵)の読み取り 6
22	「徒然草絵巻」上巻(海の見える杜美術館蔵)の読み取り 1
23	「徒然草絵巻」中巻(海の見える杜美術館蔵)の読み取り 2
24	「徒然草絵巻」下巻(海の見える杜美術館蔵)の読み取り 3
25	「徒然草図屏風 右隻」(熱田神宮蔵)
26	伝住吉如慶筆「徒然草図屏風 左隻」(熱田神宮蔵)
27	歟形蕙斎筆「徒然草図屏風 右隻」(金沢文庫蔵)の読み取り 1

28	鋏形蕙斎筆「徒然草図屏風 左隻」(金沢文庫蔵)の読み取り 2
29	「徒然草下絵」1(斎宮歴史博物館蔵)
30	「徒然草下絵」2(斎宮歴史博物館蔵)

科目名	美術史学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標	
本講は美術史学に必要な基礎知識を習得することを目的とする。図像学の基礎である文献(典拠)と図像の関係をしっかり押さえ、それに基づいて、一つの作品の特殊性を解明する訓練を行う。 後期はヴェネツィア共和国における神話形成に関する基礎文献を英語で読む。	
授業概要	
[前期]美術史学の基礎の一つイコノグラフィーをギリシア・ローマの神話主題とキリスト教主題に関して考察する。 [後期]David Rosand 著 Myths of Venice(ヴェネツィアの神話) The University of North Carolina Press, 2001 を輪読する。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
美術史学の基礎知識を習得すると同時に、先行研究論文の読み方もしっかりマスターしてほしい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	50
レポート	50

教科書			
教科書1	西洋美術の歴史 4 ルネサンス 1		
出版社名	中央公論新社	著者名	小佐野重利他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	西洋美術解説事典		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション イコノグラフィーとイコノロジー ギリシア・ローマ神話主題とキリスト教主題
2	ウェヌスの変容 1 ギリシア神話のアフロディテの図像が裸婦、横臥像になる過程を追い、それがローマ神話の中でウェヌス図像として帝国内に広がっていく様子を理解する。
3	ウェヌスの変容 2 古代世界で形成された「横たわる裸婦」としてのウェヌス図像が、ルネサンス以降の美術の中でどのように受け継がれていくかを理解する。
4	ヘラクレスの変容 1 ギリシア・ローマ神話の中で、第一の英雄としてのヘラクレス図像を、十二神業を中心として理解する。
5	ヘラクレスの変容 2 ルネサンス以降の美術の中で、ヘラクレス図像がどのように援用されていくかを理解する。
6	ヴェネツィア神話の誕生 泥の中から生まれたヴェネツィア共和国が、自らを神話化していく過程を追う。
7	ヴェネツィア神話の変容 ヴェネツィアと正義、聖母マリアが重ねられる作例とその契機について学ぶ。
8	ヴェネツィア神話の完成 不可侵の処女としてのヴェネツィアとアストラエア、乙女座が重ねられる作例について学ぶ。
9	聖マルコの物語 1 本来の福音書記者聖マルコ伝を学ぶ。中世における図像の作例を理解する。
10	聖マルコの物語 2 トゥッリオ・ロンバルド作《総督ジョヴァンニ・モチェニーゴ記念碑》に見られる図像の問題点を指摘する。
11	聖マルコの物語 3 聖マルコとアニアヌスの図像がどのような変遷を辿るかを理解する。
12	ヴェネツィアの図像体系 1 ヴェネツィア共和国の中心であるサン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する。サン・マルコ聖堂の図像に

	ついて学ぶ。
13	ヴェネツィアの図像体系 2 サン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する。総督宮殿について学ぶ。
14	ヴェネツィアの図像体系 3 サン・マルコ広場に込められた象徴的意味を理解する。新旧行政館、時計塔、ナポレオン翼などについて学ぶ。
15	学生発表とレポート提出
16	Myths of Venice Introduction
17	The Appropriation of Olympus
18	The Appropriation of Olympus
19	The Appropriation of Olympus
20	The Appropriation of Olympus
21	The Appropriation of Olympus
22	The Appropriation of Olympus
23	The Appropriation of Olympus
24	The Appropriation of Olympus
25	The Appropriation of Olympus
26	The Appropriation of Olympus
27	The Appropriation of Olympus
28	The Appropriation of Olympus
29	The Appropriation of Olympus
30	The Appropriation of Olympus レポート提出

科目名	美術史学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					

授業目的と到達目標	
鎌倉時代末に兼好法師が著した『徒然草』は『枕草子』『方丈記』とともに随筆の名作として知られています。『徒然草』を主題にして江戸時代に描いた「徒然草図」の屏風や絵巻などを取り挙げます。「徒然草図」に描かれた章段を順次読み解いていきます。作品の構図や表現などを通して、随筆の絵画化について考えることを目的にします。	
授業概要	
現存する徒然草図で既に作品調査を終えた屏風、絵巻など取り扱います。調査時に収集した画像を使いながら、絵師の目指した表現の意図を考えたいと思います。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
機会を見つけて展覧会に出かけ、授業に関連する作品以外のにも広く目を向けたり、関連する書物を読むなどして、さまざまな事物に対して関心の輪を広げてください。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
レポート(課題)	60
平常の授業態度 1(質疑応答など)	20
平常の授業態度 2(出席状況など)	20

教科書			
教科書1	使用しません。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『徒然草』全注釈 1~4		
出版社名	講談社学術文庫	著者名	三木紀人
参考書名2	『徒然草全注釈』上・下		
出版社名	角川書店	著者名	安良岡康作
参考書名3	『絵巻で見る・読む徒然草』		
出版社名	『絵巻で見る・読む徒然草』	著者名	嶋内裕子ほか
参考書名4			

科目名	美術史学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					

授業目的と到達目標
本講義は美術史学研究に必要な基礎知識を習得することを目的とし、後期はヴェネツィア共和国における「神話」形成に関するローザンド著の基礎文献『ヴェネツィア神話』を講読する。
授業概要
David Rosand, Myths of Venice, The University of North Carolina Press, 2001 を講読する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
後期は先行研究の読み方を学ぶ。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点	50%
発表、レポート	50%

教科書			
教科書1	Myths of Venice		
出版社名	The University of North Carolina Press	著者名	David Rosand
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	西洋美術の歴史 4 ルネサンス 1		
出版社名	中央公論新社	著者名	小佐野重利他
参考書名2	西洋美術解説事典		
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

科目名	現代美術特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
対面授業 今年度の前半は、20 世紀初頭フランスのパリを中心に生まれた前衛芸術の諸潮流について、そこでの日本人アーティストの活動も視野に入れつつ、(1)芸術諸ジャンルの交差、(2)文化の編み合わせ、という二つの視点から追跡する。それを通して、現代アートを特徴づける「パフォーマンス」という要素の萌芽を探る。後半は「パフォーマンス」に関するテキスト読解と受講生の研究発表を中心にする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
配布する資料についての予習・復習を必要とする。受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書			
教科書1	授業中に指示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	現代美術特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	長野 順子				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
対面授業 今年度の前半は、20 世紀初頭フランスのパリを中心に生まれた前衛芸術の諸潮流について、そこでの日本人アーティストの活動も視野に入れつつ、(1)芸術諸ジャンルの交差、(2)文化の編み合わせ、という二つの視点から追跡する。それを通して、現代アートを特徴づける「パフォーマンス」という要素の萌芽を探る。後半は「パフォーマンス」に関するテキスト読解と受講生の研究発表を中心にする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
配布する資料についての予習・復習を必要とする。受講生各自が自分の関心に応じて積極的に考え、能動的に思索すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点	40
学期末レポート	60

教科書			
教科書1	授業中に指示またはプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業中にその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	工芸特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	上田 順平				
クラス名					

授業目的と到達目標
百均、茶道、縄文土器、ファインセラミックス、やきものは生活と芸術を繋ぐ存在であり、時代や環境を映す鏡でもあります。また、焼成という人為的な行為によって成立する物質であり、化学の側面も併せ持ちます。 この講義では、やきものを通して背景にある文化、歴史への認識を深め、絶えず変化し続ける物質と向き合いながら制作し、物質について再考察します。そして、受講生が新たな視点を獲得し、自身の研究を深める事を目指します。
授業概要
前期: 陶磁器の制作プロセスである手びねり技法と板作り技法の実践により、粘土の可塑性、含有水分量に則したアプローチを体感します。また、直接物質に触れることにより生まれる形体、構想を認識します。 後期: 陶磁器の制作プロセスであるくり抜き技法の実践により、自由度の高い造形を行います。最終制作では、これまでの技法を用いて自身の研究と関連する作品を制作し、客観的な視点と研究の幅を拡張します。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
生活、芸術におけるやきものへの関心を深め、美術館、博物館等へ研修に行くこと。窯づめ窯たきに合わせて、受講生全員おの制作進行を合わせなければならない為、全ての回に出席すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
制作作品	70
プレゼンテーション	20
提出物	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要、陶磁器制作プロセス説明 講義:上田順平研究プレゼンテーション 1(陶磁史と自作)
2	講義:上田順平研究プレゼンテーション 2(メキシコ研修と自作)
3	受講生による研究プレゼンテーション 1(人数により回数変更有り)
4	受講生による研究プレゼンテーション 2(人数により回数変更有り)
5	制作:「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」 ① 手びねり成形
6	② 手びねり成形終了、形体調整
7	③ 口部、底部仕上げ→乾燥
8	制作:「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」 ① タタラ板を利用した粘土板制作、比率考察
9	② 凹凸加工、型紙制作
10	③ 粘土板組み立て
11	④ 仕上げ→乾燥 ▪「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
12	▪「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」に加飾、施釉 ▪「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
13	▪「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」に施釉

14	▪「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」焼成本焼き窯詰め→焼成
15	講評会 1
16	講義:「現代美術と現代陶芸？」
17	制作:「開口部のある造形」 ① 成形
18	② 内部くり抜き→接合
19	③ 形体調整
20	④ 口部、底部仕上げ→乾燥
21	制作:「自身の研究と関連した制作」 ① 成形1
22	② 成形2
23	③ 成形3
24	④ 成形4
25	▪仕上げ→乾燥 ▪素焼き窯詰め→焼成
26	▪加飾
27	▪加飾
28	▪施釉
29	▪施釉 ▪本焼き窯詰め→焼成
30	講評会 2

科目名	工芸特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	上田 順平				
クラス名					

授業目的と到達目標
百均、茶道、縄文土器、ファインセラミックス、やきものは生活と芸術を繋ぐ存在であり、時代や環境を映す鏡でもあります。また、焼成という人為的な行為によって成立する物質であり、化学の側面も併せ持ちます。 この講義では、やきものを通して背景にある文化、歴史への認識を深め、絶えず変化し続ける物質と向き合いながら制作し、物質について再考察します。そして、受講生が新たな視点を獲得し、自身の研究を深める事を目指します。
授業概要
前期: 陶磁器の制作プロセスである手びねり技法と板作り技法の実践により、粘土の可塑性、含有水分量に則したアプローチを体感します。また、直接物質に触れることにより生まれる形体、構想を認識します。 後期: 陶磁器の制作プロセスであるくり抜き技法の実践により、自由度の高い造形を行います。最終制作では、これまでの技法を用いて自身の研究と関連する作品を制作し、客観的な視点と研究の幅を拡張します。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
生活、芸術におけるやきものへの関心を深め、美術館、博物館等へ研修に行くこと。窯づめ窯たきに合わせて、受講生全員おの制作進行を合わせなければならない為、全ての回に出席すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
制作作品	70
プレゼンテーション	20
提出物	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要、陶磁器制作プロセス説明 講義:上田順平研究プレゼンテーション 1(陶磁史と自作)
2	講義:上田順平研究プレゼンテーション 2(メキシコ研修と自作)
3	受講生による研究プレゼンテーション 1(人数により回数変更有り)
4	受講生による研究プレゼンテーション 2(人数により回数変更有り)
5	制作:「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」 ① 手びねり成形
6	② 手びねり成形終了、形体調整
7	③ 口部、底部仕上げ→乾燥
8	制作:「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」 ① タタラ板を利用した粘土板制作、比率考察
9	② 凹凸加工、型紙制作
10	③ 粘土板組み立て
11	④ 仕上げ→乾燥 ▪「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
12	▪「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」に加飾、施釉 ▪「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」素焼き窯詰め→焼成
13	▪「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」に施釉

14	▪「筒型を基本とした造形、描画によるデザイン」 ▪「箱型を基本とした造形、凹凸によるデザイン」 焼成本焼き窯詰め→焼成
15	講評会 1
16	講義:「現代美術と現代陶芸？」
17	制作:「開口部のある造形」 ① 成形
18	② 内部くり抜き→接合
19	③ 形体調整
20	④ 口部、底部仕上げ→乾燥
21	制作:「自身の研究と関連した制作」 ① 成形1
22	② 成形2
23	③ 成形3
24	④ 成形4
25	▪仕上げ→乾燥 ▪素焼き窯詰め→焼成
26	▪加飾
27	▪加飾
28	▪施釉
29	▪施釉 ▪本焼き窯詰め→焼成
30	講評会 2

科目名	工芸特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					

授業目的と到達目標	
鋳金、鍛金、彫金の基礎技術に触れ金属工芸についての基礎知識と基礎技術の習得を目的とする。 金属工芸で使われる多様な金属の特性を知る。	
授業概要	
異なった技法と金属素材で前期と後期で作品を1点ずつ制作します。 前期(彫金)真鍮板を素材に実用性のある透かし(糸鋸による)作品を制作します。 後期(鋳金)アルミニウムを素材にCO2ガス型鋳造法による用途を持った鋳物作品を制作します。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
金属工芸では制作にあたって専門機具や薬品、火気等を使用します。 必ず作業に適した服装を着用して下さい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	40
制作作品	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
http://masaab.sakura.ne.jp
特記事項
教員実務経験
金属造形作家が幅広い視野で指導します。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	金属工芸概要説明 「真鍮透かし作品」実制作画像を見ながら課題説明
2	透かしデザインの作成
3	展開図の作成 板取り
4	本体の透かし
5	本体の透かし
6	本体の透かし
7	本体透かし ヤスリ、ペーパーがけ
8	本体透かし ペーパーがけ
9	機械による曲げ加工
10	パーツ切り出し
11	パーツの透かし
12	パーツの透かし
13	本体とパーツの接合 ハンダ付け
14	全体の仕上げ ペーパーがけ 鏡面研磨
15	合評
16	アルミニウム鑄造工程の説明 「アルミ鑄造作品」の画像を見ながら課題説明
17	スケッチによるアイデアチェック
18	油土によるモデリング
19	油土によるモデリング 石膏取り(雌型)
20	石膏取り(雌型)
21	石膏原型の注型
22	石膏原型仕上げ
23	鑄型づくり(CO2 型)
24	鑄型づくり(CO2 型)

25	アルミニウムの鋳込み
26	湯道切断 ヤスリがけ
27	仕上げ
28	仕上げ
29	仕上げ 磨き
30	合評

科目名	工芸特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名					

授業目的と到達目標	
鋳金、鍛金、彫金の基礎技術に触れ金属工芸についての基礎知識と基礎技術の習得を目的とする。 金属工芸で使われる多様な金属の特性を知る。	
授業概要	
異なった技法と金属素材で前期と後期で作品を1点ずつ制作します。 前期(彫金)真鍮板を素材に実用性のある透かし(糸鋸による)作品を制作します。 後期(鋳金)アルミニウムを素材にCO2ガス型鋳造法による用途を持った鋳物作品を制作します。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
金属工芸では制作にあたって専門機具や薬品、火気等を使用します。 必ず作業に適した服装を着用して下さい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	40
制作作品	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	美術鋳物の手法		
出版社名	アグネ技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名2	金工基礎実習		
出版社名	丸善株式会社	著者名	佐々田美雪/長谷川政弘

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
http://masaab.sakura.ne.jp
特記事項
教員実務経験
金属造形作家が幅広い視野で指導します。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	金属工芸概要説明 「真鍮透かし作品」実制作画像を見ながら課題説明
2	透かしデザインの作成
3	展開図の作成 板取り
4	本体の透かし
5	本体の透かし
6	本体の透かし
7	本体透かし ヤスリ、ペーパーがけ
8	本体透かし ペーパーがけ
9	機械による曲げ加工
10	パーツ切り出し
11	パーツの透かし
12	パーツの透かし
13	本体とパーツの接合 ハンダ付け
14	全体の仕上げ ペーパーがけ 鏡面研磨
15	合評
16	アルミニウム鑄造工程の説明 「アルミ鑄造作品」の画像を見ながら課題説明
17	スケッチによるアイデアチェック
18	油土によるモデリング
19	油土によるモデリング 石膏取り(雌型)
20	石膏取り(雌型)
21	石膏原型の注型
22	石膏原型仕上げ
23	鑄型づくり(CO2 型)
24	鑄型づくり(CO2 型)

25	アルミニウムの鋳込み
26	湯道切断 ヤスリがけ
27	仕上げ
28	仕上げ
29	仕上げ 磨き
30	合評

科目名	工芸特殊研究Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					

授業目的と到達目標
染織には布を染める「染め」と、糸を織る「織り」がある。多くの場合、そのどちらにも染色の工程が介在しているが、染色は染めるだけでは成立しない。その対極にある染めない部分をいかに作るかが重要であり、これを防染と言う。防染を行うには様々なプロセス、素材や技法を必要とする。この授業では素材や技法との対話やプロセスで生まれる新しい染色表現の探求を目的とし、染色分野の理解と各自の専門分野への新しいアプローチの発見が目標である。
授業概要
防染に用いられる素材の代表であるろうと糊に注目し、それぞれの特性や技法などを演習によって体験し、各自の作品へ展開する。 また、現代の染織作品や染織界の動向などについて適宜、資料などで紹介する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
身の回りに溢れる染織品に目を向け、染織分野と人との密接さを感じて欲しい。新しいもの、古いもの、専門分野の枠にとらわれず美術館、ギャラリーへ出向き、視野を広げること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出課題・作品	70
プレゼンテーション	30

教科書			
教科書1	適宜資料等を配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	染めを学ぶ		
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他
参考書名2	21世紀は工芸が面白い		
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹編著
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
[舘 正明 HP, https://tatemasaaki.jimdofree.com/]
特記事項
教員実務経験
染色による作品制作で活動する作家が担当する。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業説明、担当教員によるプレゼンテーション
2	受講生によるプレゼンテーション
3	布を染める1 準備 布を張る 道具の使い方 地入れ
4	布を染める2 染色 染料の特性を知る
5	布を染める3 仕上げ 蒸し
6	布を染める4 仕上げ 水元
7	ろうによる防染を考える1 講義 ろう染めについて
8	ろうによる防染を考える2 染色 染料の滲みを生かして
9	ろうによる防染を考える3 防染 ろうを置く
10	ろうによる防染を考える4 仕上げ 脱ろうソーピング
11	技法研究1-1 パティック 試作・デザイン

12	技法研究1-2 バティック ろう置き
13	技法研究1-3 バティック 藍染め
14	技法研究1-4 バティック 仕上げ 脱ろうソーピング
15	合評
16	糊による防染を考える1 講義 型染めについて
17	糊による防染を考える2 糊置き
18	糊による防染を考える3 地入れ 技法研究2-1 筒描き 試作・デザイン
19	糊による防染を考える4 染色
20	糊による防染を考える5 染料定着、糊落し
21	技法研究2-2 筒描き 糊置き
22	技法研究2-3 筒描き 染色
23	技法研究2-4 筒描き 仕上げ 糊落し・水元
24	合評 防染による染色布の制作1 染色作品制作に向けての計画発表
25	防染による染色布の制作2 各自の計画により制作を進める
26	防染による染色布の制作3 各自の計画により制作を進める
27	防染による染色布の制作4 各自の計画により制作を進める
28	防染による染色布の制作5 各自の計画により制作を進める
29	防染による染色布の制作6 各自の計画により制作を進める
30	プレゼンテーション・合評

科目名	工芸特殊研究Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	舘 正明				
クラス名					

授業目的と到達目標
染織には布を染める「染め」と、糸を織る「織り」がある。多くの場合、そのどちらにも染色の工程が介在しているが、染色は染めるだけでは成立しない。その対極にある染めない部分をいかに作るかが重要であり、これを防染と言う。防染を行うには様々なプロセス、素材や技法を必要とする。この授業では素材や技法との対話やプロセスで生まれる新しい染色表現の探求を目的とし、染色分野の理解と各自の専門分野への新しいアプローチの発見が目標である。
授業概要
防染に用いられる素材の代表である糊に注目し、それぞれの特性や技法などを演習によって体験し、各自の作品へ展開する。 また、現代の染織作品や染織界の動向などについて適宜、資料などで紹介する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
身の回りに溢れる染織品に目を向け、染織分野と人との密接さを感じて欲しい。新しいもの、古いもの、専門分野の枠にとらわれず美術館、ギャラリーへ出向き、視野を広げること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出課題・作品	70
プレゼンテーション	30

教科書			
教科書1	適宜資料等を配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	染を学ぶ		
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他
参考書名2	21世紀は工芸が面白い		
出版社名	求龍堂	著者名	福本繁樹編著
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
[舘 正明 HP, https://tatemasaaki.jimdofree.com/]
特記事項
教員実務経験
染色による作品制作で活動する作家が担当する。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	糊による防染を考える1 講義 型染めについて
2	糊による防染を考える2 糊置き
3	糊による防染を考える3 地入れ 技法研究2-1 筒描き 試作・デザイン
4	糊による防染を考える4 染色
5	糊による防染を考える5 染料定着、糊落し
6	技法研究2-2 筒描き 糊置き
7	技法研究2-3 筒描き 染色
8	技法研究2-4 筒描き 仕上げ 糊落し・水元
9	合評 防染による染色布の制作1

[illegible]

科目名	工芸特殊研究Ⅳ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	木下 良輔				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸についての基本理解とガラス技法の体験学習を通して、各学生の専門領域とガラスとの新たな関わりを模索する。幅広くガラスについての知識を得るとともに、グローバルな考えを持って活躍の場が広がることを期待する。
授業概要
ガラス素材の歴史的変遷、技法、それに伴う機械や設備、道具と材料等々について、演習を通して理解する。各自の専門領域に基づく新たなガラスの提案を形にし、展示発表を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
素材としてのガラスの特徴をとらえることに最大限の関心を持つこと。既成の概念と常識にとらわれずに、自分の感性でガラスを感じて欲しい。考察レポート作成のためのスケッチや記録撮影を随時行うこと。第 15 回の考察記録の提出とプレゼンテーション、及び、第 30 回の作品展示発表とプレゼンテーションは必修。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
考察プレゼンテーション	25
考察記録	25
提案作品	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	コールドワークテキスト		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名2	パート・ド・ヴェールの技法		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名3	世界ガラス工芸史		
出版社名	世界ガラス工芸史	著者名	中山公男
参考書名4	吹きガラステキスト		

出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
ガラス造形作家

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス／年間授業説明
2	教員と指導スタッフによるプレゼンテーション
3	履修者のプレゼンテーション
4	体験授業1 ホットワーク1
5	体験授業2 ホットワーク2
6	体験授業3 バーナーワーク
7	体験授業4 キルンワーク1
8	体験授業5 キルンワーク2
9	体験授業6 キルンワーク3
10	体験授業7 コールドワーク1
11	体験授業8 コールドワーク2
12	体験授業9 コールドワーク3
13	作業予備日
14	作業予備日
15	前期講評会 ／ 課題提出日
16	後期課題説明
17	個別指導
18	後期課題プレゼンテーション1
19	後期課題プレゼンテーション2
20	制作
21	制作
22	制作
23	制作
24	中間発表
25	制作
26	制作
27	制作

28	制作
29	後期講評会
30	課題提出日

科目名	工芸特殊研究Ⅳ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	木下 良輔				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸についての基本理解とガラス技法の体験学習を通して、各学生の専門領域とガラスとの新たな関わりを模索する。幅広くガラスについての知識を得るとともに、グローバルな考えを持って活躍の場が広がることを期待する。
授業概要
ガラス素材の歴史的変遷、技法、それに伴う機械や設備、道具と材料等々について、演習を通して理解する。各自の専門領域に基づく新たなガラスの提案を形にし、展示発表を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
素材としてのガラスの特徴をとらえることに最大限の関心を持つこと。既成の概念と常識にとらわれずに、自分の感性でガラスを感じて欲しい。考察レポート作成のためのスケッチや記録撮影を随時行うこと。第 15 回の考察記録の提出とプレゼンテーション、及び、第 30 回の作品展示発表とプレゼンテーションは必修。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
考察プレゼンテーション	25
考察記録	25
提案作品	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	コールドワークテキスト		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名 2	パート・ド・ヴェールの技法		
出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名 3	世界ガラス工芸史		
出版社名	世界ガラス工芸史	著者名	中山公男
参考書名 4	吹きガラステキスト		

出版社名	東京ガラス工芸研究所	著者名	東京ガラス工芸研究所編
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
ガラス造形作家

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス／年間授業説明
2	教員と指導スタッフによるプレゼンテーション
3	履修者のプレゼンテーション
4	体験授業1 ホットワーク1
5	体験授業2 ホットワーク2
6	体験授業3 バーナーワーク
7	体験授業4 キルンワーク1
8	体験授業5 キルンワーク2
9	体験授業6 キルンワーク3
10	体験授業7 コールドワーク1
11	体験授業8 コールドワーク2
12	体験授業9 コールドワーク3
13	作業予備日
14	作業予備日
15	前期講評会 / 課題提出日
16	後期課題説明
17	個別指導
18	後期課題プレゼンテーション1
19	後期課題プレゼンテーション2
20	制作
21	制作
22	制作
23	制作
24	中間発表
25	制作
26	制作
27	制作

28	制作
29	後期講評会
30	課題提出日

科目名	工芸・デザイン学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
デザインは、いまや様々な領域におよぶ活動へと拡大・変質している。当授業では、そうした様々なデザインの営みの諸相を広く見渡し、その各々の活動の意味や他のデザイン活動との関係性への理解を深めることを目的とする。そのなかで、工芸という営為がこれからどのような可能性を持ちうるかへの問題意識を高めること、そしてデザインという活動全体への現代的な眼差しを涵養することが、目標となる。
授業概要
【対面授業】 最初に、工芸とは何かについて、日本の近代化の過程を振り返りながら考察する。また、それがデザインという問題意識と、いかなる関係を結んできたかを、近代工芸運動を概観しつつ考える。続けて、様々なデザインの分野を取り上げ、各々の注目すべき事例を中心に検討してゆく。「デザイン史」の授業とは異なり、歴史を体系的に辿る以上に、工芸やデザインの感覚や思考をアクチュアルに触発する作品や現象の主題的な分析に重点を置く。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
期末テスト(筆記)	80
平常点	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			

出版社名		著者名	
------	--	-----	--

参考書・参考文献			
参考書名1	授業の中で適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「イントロダクション:工芸とは何か?」:「工芸」という概念が、いかにして形成されてきたかを、明治期の日本の近代化の黎明期に遡って検討する。その検討の過程で、「工芸」と「美術」と「技術」の違いという重要な問題についても、歴史的に考えてゆく。
2	「〈日本的なるもの〉と工芸・デザイン」:〈日本的なるもの〉への自意識は、明治以前には基本的になかったはずだ。では、それはいつどのような状況で登場し、その初期には何が〈日本的〉とアピールされ、工芸はいかなる役回りを演じたのか? また、〈日本的な〉工芸・デザインとはどのようなものと見なされ、それが時代を通じて不変なのかどうかも考察の対象とする。
3	「ヨーロッパにおける近代工芸運動」:近代における工芸の改革運動とは、どのような問題意識を持ち、どのような成果を出しながら、進展していったか? ウィリアム・モリスからバウハウスまでを一気に概観することで、近代工芸運動に働く方向性のいくつかを明確化してゆく。
4	「日本における近代工芸運動」:柳宗悦の民芸運動について検討する。彼の唱えた「用の美」の思想や、彼と協力関係にあった工芸家たちや彼らの認めた無名の工人たちの工芸品を振り返るとともに、日本民藝館の活動にも注目してゆく。
5	「近代装飾と近代絵画」:近代絵画が平面イメージ化し、それが壁面装飾化＝装飾壁面化してゆく諸例に注目する。マネ、モネ、ゴーギャン、ナビ派、クリムト、マチス、ポロック等々。また、そうした絵画の傾向に関わる理論として、ミシェル・フーコーやクレメント・グリーンバーグの言説も参考にする。
6	「近代建築の平面と工芸」:近代建築に特徴的なベクトルのひとつは、水平面と垂直面による平面的構成にあった。

	その顕著な例として、ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエのいくつかの作品に注目する。また、そうした発想を、電灯や椅子から建築までに貫いて用いたヘリット・リートフェルトの作品を顧みる。
7	「ファッションと空間デザイン」: 衣服が単に着るためのものではなく、ファッションとして市民へ開かれてゆくのは、主にフランス革命以降である。だが、市民はすぐさまファッショナブルに変貌しえた訳ではなかった。それには、ファッションが夢のイメージとして上映される空間が、大きな意味を果たしていた。パッサージュ。そして初期のデパートの空間デザインについて、振り返る。
8	「流行とブランドのデザイン」: 19 世紀半ばにシャルル・フレデリック・ウォルトの発明した、オート・クチュールという装置の画期性について見てゆく。またあわせて、ウォルト以前の。ファッションが必ずしも衣服のデザインのみを指さなかった時代について確認する。そのなかで、ファッションにおいて明白に存在する建築的次元について注目する。
9	「洋服を超える〈ファッション〉デザイン」: 60 年代になると、トータルなライフスタイルの提言や実践として、ファッションが加速し始める。言い換えるなら、〈ファッション〉は、洋服だけの問題ではなく、他のファッショナブルなデザインと密接に連携することになる。60 年代ロンドンのファッション・シーン、そしてピエール・カルダンのデザイン戦略を検討する。
10	「ミュージシャンのファッション・デザイン」: 第 9 回目とほぼ同じ問題意識から、今回は、特にポップミュージック・シーンのなかで発信されてきた広義の〈ファッション〉デザインについて、時代を振り返り概観してゆく。モッズ、パンク、ニューウェーブ、グラム、ニューロマンティック、グランジなどを中心に講義する、
11	「ファッションと現代建築のデザイン」: 2000 年代に入ると、表参道には高級ブランドのファッションビルが次々と建ち始める。その設計は、各々が気鋭の現代建築家たちによるもので、表参道は以降、現代建築のショーケースとなる。また、2006～7 年に LA の現代美術館で開催された「Skin + Bones」展では、ファッションと建築の交錯する諸例が示された。以上 2 つの方向から、両デザインの複合を検証する。
12	「グラフィックデザインと都市・建築」: 建物や都市のペーパー上でのデザインに新たな建築の可能性を見出した、アーキグラムをはじめとする 60 年代のアンビルトのデザインの可能性を探る。また、広告看板や、壁面への巨大なグラフィックが、建築や都市の空間性を大きく変容させる力について、ヴェンチュエリの言説やスーパーグラフィックスの実践を考察する。
13	「ポストモダンデザイン」: 70 年代後半以降の世界のポストモダン建築にくわえて、日本のバブル期のそれについても具体例を見てゆく。チャールズ・ジェンクスの建築思想や、ジャン・フランソワ・リオタールのポストモダン概念も参照する。
14	「ミニマルデザインと建築」: 最小限のデザインについて、批判的に考える。ミース・ファン・デル・ローエ、ミニマリズムのアートのほか、90 年代以降のポスト・ミニマル建築の作品を分析し、現代におけるミニマルデザインの射程についても見定めてゆく。
15	「グローバルスタイルのデザイン」: グローバリゼーションの時代に、クールで経済的で市民に開かれた先端技術の建築イメージを提示しているレンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースの建築デザインを検討してゆく。
16	「構造デザイン」: 構造は、建築において必ずしも黒子ではない。構造が優れたデザインとなって明示的に現れた諸例を紹介する。とりわけ、構造上の工夫や複雑な構造計算を要する近現代建築のある種のタイプでは、すぐれた構造家はスター的存在感を発揮してきた。ピーター・ライス、佐々木睦朗、セシル・バルモンドらの作例を見ながら、構造デザインの美学を検討する。
17	「都市デザイン」: 過去の都市デザインの中から、とりわけ重要と思われる事例を再考する。オスマンのパリ改造やグランプロジェなどの実現例はもちろん、ル・コルビュジエ、レム・コールハース等の過剰な都市デザインの思想も、考察の材料とする。

18	「ランドスケープデザイン」: 都市の公共空間デザインや造園デザインと重なりつつも、それらとは微妙に異なるランドスケープデザインの可能性の中心を見据える。それは、ランドスケープ(=風景)という概念の発生やその変遷を顧みる試みの意義も持つ。建物とランドスケープのデザインが一体連続化した現代の諸例についても見てゆく。
19	「日本のインテリアデザイン」: 近代化以降の日本の住環境をめぐる歴史を概観する。室内空間のデザインにくわえて、家具や環境のデザインも考察する。また、剣持勇や倉俣史朗といったデザイナーについても概説する。
20	「タイポグラフィのデザイン」: 産業化時代、バウハウス、国際タイポグラフィック様式、ニューヨーク派、ニューウェーブ派、コンピュータ作成のタイポグラフィについて、時代順に概観してゆく。特に、国際タイポグラフィック様式にスポットをあてる。
21	「サウンドデザインと空間デザイン」: 音楽は、音により空間を変容させ、新たな空間性を創造してゆく行為だという意識が、ある時期以降活性化しだす。現代音楽における空間デザイン、またポップミュージックに浮上した空間デザインの先駆的例について、体験する機会を設ける。後者については、特に奇オフィル・スペクターに注目する。
22	「サウンドデザインとコンセプチュアル・アルバム」: 前回に引き続き、今回は 60 年代のポップミュージックにおけるサウンドデザインの意識の高まりを検討してゆく。ビーチボーイズ、ビートルズ、そしてフィル・スペクターの回帰について検討しながら、コンセプトアルバムというアイデアや、彼らのサウンドデザインのその後への影響について探ってゆく。
23	「映画のタイトルデザイン」: 映画の冒頭に作品名や人名等とともに登場するタイトルのいくつかは、本の表紙以上に作品の印象を最初に効果的に告げる優れたデザイン性を見せる。ソウル・バス、カイル・クーパー等による魅力的な作品例に目を向ける。
24	「TV ゲームとブックデザイン」: TV ゲームが新しいメディアとして大きな可能性を感じさせた時代があった。パソコンやインターネットが普及する前夜とも言うべき、80 年代後半から 90 年代前半にかけてだ。この時期、そうした可能性をいかに本にして告げるかというデザイン目標を持った本が登場した。それらを紹介しつつ、新旧メディアの動的な関係性についてケーススタディする。
25	「展覧会とアートスペースのデザイン」: 美術館と作品の関係は歴史的に一樣ではないし、展示のデザインも時代や美術館や展覧会のタイプによって異なる。それらのデザインをいくつかに大別しながら、各々の代表例を見てゆく。
26	「CI のデザイン」: 会社というそのままでは目には見えない組織のイメージを、どう戦略的に統一化して社会へ訴求してゆくか。そうした問題をデザインによって解決する手法について考えてゆく。高級ブランドのロゴのデザインの高級性についても検討する。
27	「情報デザイン」: いかに情報をわかりやすく効果的に伝えるかという意味で、ますます情報デザインは、われわれに必須のリテラシーと化している。情報デザインという考え方がいかにして登場し、どのような有効性を持つかを、ページックに確認してゆく。オットー・ノイラート、エドワード・タフティ、アフォーダンスなどにも注目する。
28	「キャリアデザイン」: こうした言葉があるからには、職業人生は、いまやデザインするものとも考えられているようだ。しかし、キャリアをデザインすることとは、就職活動上や実際の仕事上やキャリアアップ戦略上の能力アップとでは、どう異なるのか? キャリア「デザイン」という言説の作動する状況やその功罪について、批判的に分析する。
29	「コミュニティデザイン／ソーシャル・デザイン」: 社会や地域は、放っておいてもプラスの方向には向かわないかもしれない。計画でも単なる実践行為でもなく、コミュニティや社会をデザインするとはどういうことか? そのポジティブな諸例を参照してゆく。
30	「まとめ」: これまでの授業を振り返り、総括や重要点の確認を行う。また、これまでに言及していないが重要なトピックについて、受講する学生の関心も踏まえながら、補足的にいくつか説明する。

科目名	工芸・デザイン学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					

授業目的と到達目標
デザインは、いまや様々な領域におよぶ活動へと拡大・変質している。当授業では、そうした様々なデザインの営みの諸相を広く見渡し、その各々の活動の意味や他のデザイン活動との関係性への理解を深めることを目的とする。そのなかで、工芸という営為がこれからどのような可能性を持ちうるかへの問題意識を高めること、そしてデザインという活動全体への現代的な眼差しを涵養することが、目標となる。
授業概要
最初に、工芸とは何かについて、日本の近代化の過程を振り返りながら考察する。また、それがデザインという問題意識と、いかなる関係を結んできたかを、近代工芸運動を概観しつつ考える。続けて、様々なデザインの分野を取り上げ、各々の注目すべき事例を中心に検討してゆく。「デザイン史」の授業とは異なり、歴史を体系的に辿る以上に、工芸やデザインの感覚や思考をアクチュアルに触発する作品や現象の主題的な分析に重点を置く。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
期末テスト(筆記)	80
平常点	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業の中で適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「イントロダクション: 工芸とは何か?」: 「工芸」という概念が、いかにして形成されてきたかを、明治期の日本の近代化の黎明期に遡って検討する。その検討の過程で、「工芸」と「美術」と「技術」の違いという重要な問題についても、歴史的に考えてゆく。
2	「〈日本的なるもの〉と工芸・デザイン」: 〈日本的なるもの〉への自意識は、明治以前には基本的になかったはずだ。では、それはいつどのような状況で登場し、その初期には何が〈日本的〉とアピールされ、工芸はいかなる役回りを演じたのか? また、〈日本的な〉工芸・デザインとはどのようなものと見なされ、それが時代を通じて不変なのかどうかも考察の対象とする。
3	「ヨーロッパにおける近代工芸運動」: 近代における工芸の改革運動とは、どのような問題意識を持ち、どのような成果を出しながら、進展していったか? ウィリアム・モリスからバウハウスまでを一気に概観することで、近代工芸運動に働く方向性のいくつかを明確化してゆく。
4	「日本における近代工芸運動」: 柳宗悦の民芸運動について検討する。彼の唱えた「用の美」の思想や、彼と協力関係にあった工芸家たちや彼らの認めた無名の工人たちの工芸品を振り返るとともに、日本民藝館の活動にも注目してゆく。
5	「近代装飾と近代絵画」: 近代絵画が平面イメージ化し、それが壁面装飾化＝装飾壁面化してゆく諸例に注目する。

	マネ、モネ、ゴッガ ン、ナビ派、クリムト、マチス、ポロック等々。また、そうした絵画の傾向に関わる理論として、ミシェル・フーコーやクレ メント・グ リーンバークの言説も参考にする。
6	「近代建築の平面と工芸」：近代建築に特徴的なベクトルのひとつは、水平面と垂直面による平面的構成にあった。 その顕著な例として、 ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエのいくつかの作品に注目する。また、そうした発想を、電灯や椅子から 建築までに貫い て用いたヘリット・リートフェルトの作品を顧みる。
7	「ファッションと空間デザイン」：衣服が単に着るためのものではなく、ファッションとして市民へ開かれてゆくのは、主 にフランス革命 以降である。だが、市民はすぐさまファッションナブルに変貌しえた訳ではなかった。それには、ファッションが夢のイメ ージとして上映さ れる空間が、大きな意味を果たしていた。パッサージュ。そして初期のデパートの空間デザインについて、振り返る。
8	「流行とブランドのデザイン」：19 世紀半ばにシャルル・フレデリック・ウォルトの発明した、オート・クチュールという装 置の画期性に ついて見てゆく。またあわせて、ウォルト以前の。ファッションが必ずしも衣服のデザインのみを指さなかった時代につ いて確認する。その なかで、ファッションにおいて明白に存在する建築的次元について注目する。
9	「洋服を超える〈ファッション〉デザイン」：60 年代になると。トータルなライフスタイルの提言や実践として、ファッショ ンが加速し始 める。言い換えるなら、〈ファッション〉は、洋服だけの問題ではなく、他のファッションナブルなデザインと密接に連携す ることになる。 60 年代ロンドンのファッション・シーン、そしてピエール・カルダンのデザイン戦略を検討する。
10	「ミュージシャンのファッション・デザイン」：第 9 回目とほぼ同じ問題意識から、今回は、特にポップミュージック・シー ンのなかで発信 されてきた広義の〈ファッション〉デザインについて、時代を振り返り概観してゆく。モッズ、パンク、ニューウェーブ、グ ラム、ニュー ロマンティック、グランジなどを中心に講義する、
11	「ファッションと現代建築のデザイン」：2000 年代に入ると、表参道には高級ブランドのファッションビルが次々と建ち 始める。その設計 は、各々が気鋭の現代建築家たちによるもので、表参道は以降、現代建築のショーケースとなる。また、2006～7 年 に LA の現代美術館で開 催された「Skin + Bones」展では、ファッションと建築の交錯する諸例が示された。以上 2 つの方向から、両デザイン の複合を検証する。
12	「グラフィックデザインと都市・建築」：建物や都市のペーパー上でのデザインに新たな建築の可能性を見出した、ア ーキグラムをはじめ とする 60 年代のアンビルトのデザインの可能性を探る。また、広告看板や、壁面への巨大なグラフィックが、建築や 都市の空間性を大きく 変容させる力について、ヴェンチュエリの言説やスーパーグラフィックスの実践を考察する。

13	「ポストモダンデザイン」: 70 年代後半以降の世界のポストモダン建築にくわえて、日本のバブル期のそれについても具体例を見てゆく。 チャールズ・ジェンクスの建築思想や、ジャン・フランソワ・リオタールのポストモダン概念も参照する。
14	「ミニマルデザインと建築」: 最小限のデザインについて、批判的に考える。ミース・ファン・デル・ローエ、ミニマリズムの のアートのほ か、90 年代以降のポスト・ミニマル建築の作品を分析し、現代におけるミニマルデザインの射程についても見定めて ゆく。
15	「グローバルスタイルのデザイン」: グローバリゼーションの時代に、クールで経済的で市民に開かれた先端技術の 建築イメージを提示し ているレンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースの建築デザインを検討してゆく。
16	「構造デザイン」: 構造は、建築において必ずしも黒子ではない。構造が優れたデザインとなって明示的に現れた諸 例を紹介する。とりわ け、構造上の工夫や複雑な構造計算を要する近現代建築のある種のタイプでは、すぐれた構造家はスター的存在 感を発揮してきた。ピー ター・ライス、佐々木睦朗、セシル・バルモンドらの作例を見ながら、構造デザインの美学を検討する。
17	「都市デザイン」: 過去の都市デザインの中から、とりわけ重要と思われる事例を再考する。オスマンのパリ改造やグ ランプロジェなどの 実現例はもちろん、ル・コルビュジエ、レム・コールハース等の過剰な都市デザインの思想も、考察の材料とする。
18	「ランドスケープデザイン」: 都市の公共空間デザインや造園デザインと重なりつつも、それらとは微妙に異なるランド スケープデザイン の可能性の中心を見据える。それは、ランドスケープ(＝風景)という概念の発生やその変遷を顧みる試みの意義も 持つ。建物とランドス ケープのデザインが一体連続化した現代の諸例についても見てゆく。
19	「日本のインテリアデザイン」: 近代化以降の日本の住環境をめぐる歴史を概観する。室内空間のデザインにくわえ て、家具や環境のデザ インも考察する。また、剣持勇や倉俣史朗といったデザイナーについても概説する。
20	「タイポグラフィのデザイン」: 産業化時代、バウハウス、国際タイポグラフィック様式、ニューヨーク派、ニューウェー ヴ派、コン ピュータ作成のタイポラフィについて、時代順に概観してゆく。特に、国際タイポグラフィック様式にスポットをあて る。
21	「サウンドデザインと空間デザイン」: 音楽は、音により空間を変容させ、新たな空間性を創造してゆく行為だという 意識が、ある時期以 降活性化しだす。現代音楽における空間デザイン、またポップミュージックに浮上した空間デザインの先駆的例につ いて、体験する機会を 設ける。後者については、特に奇オフィル・スペクターに注目する。
22	「サウンドデザインとコンセプトアルバム」: 前回に引き続き、今回は 60 年代のポップミュージックにおけるサ ウンドデザインの 意識の高まりを検討してゆく。ビーチボーイズ、ビートルズ、そしてフィル・スペクターの回帰について検討しながら、 コンセプトアルバ ムというアイデアや、彼らのサウンドデザインのその後への影響について探ってゆく。

23	「映画のタイトルデザイン」: 映画の冒頭に作品名や人名等とともに登場するタイトルのいくつかは、本の表紙以上に作品の印象を最初に 効果的に告げる優れたデザイン性を見せる。ソウル・バス、カイル・クーパー等による魅力的な作品例に目を向ける。
24	「TV ゲームとブックデザイン」: TV ゲームが新しいメディアとして大きな可能性を感じさせた時代があった。パソコンやインターネット が普及する前夜とも言うべき、80 年代後半から 90 年代前半にかけてだ。この時期、そうした可能性をいかに本にして告げるかというデザイン目標を持った本が登場した。それらを紹介しつつ、新旧メディアの動的な関係性についてケーススタディする。
25	「展覧会とアートのスペースのデザイン」: 美術館と作品の関係は歴史的に一様ではないし、展示のデザインも時代や美術館や展覧会のタイプによって異なる。それらのデザインをいくつかに大別しながら、各々の代表例を見てゆく。
26	「CI のデザイン」: 会社というそのままでは目には見えない組織のイメージを、どう戦略的に統一化して社会へ訴求してゆくか。そうした問題をデザインによって解決する手法について考えてゆく。高級ブランドのロゴのデザインの高級性についても検討する。
27	「情報デザイン」: いかに情報をわかりやすく効果的に伝えるかという意味で、ますます情報デザインは、われわれに必須のリテラシーと化している。情報デザインという考え方がいかにして登場し、どのような有効性を持つかを、ベーシックに確認してゆく。オットー・ノイラート、エドワード・タフティ、アフォーダンスなどにも注目する。
28	「キャリアデザイン」: こうした言葉があるからには、職業人生は、いまやデザインするものとも考えられているようだ。しかし、キャリアをデザインすることとは、就職活動上や実際の仕事上やキャリアアップ戦略上の能力アップとでは、どう異なるのか？ キャリア「デザイン」という言説の作動する状況やその功罪について、批判的に分析する。
29	「コミュニティデザイン／ソーシャル・デザイン」: 社会や地域は、放っておいてもプラスの方向には向かわないかもしれない。計画でも単なる実践行為でもなく、コミュニティや社会をデザインするとはどういうことか？ そのポジティブな諸例を参照してゆく。
30	「まとめ」: これまでの授業を振り返り、総括や重要点の確認を行う。また、これまでに言及していないが重要なトピックについて、受講する学生の関心も踏まえながら、補足的にいくつか説明する。

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
文芸学・演劇学に関する論文の読解と受講者による研究発表をおこなう。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD(演劇・映画等)を利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	勝田 安彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
今、ミュージカルと呼ばれている演劇は 20 世紀にアメリカで形成発展して来た。初期に於いては極めて杜撰な台本が多かったが、1940 年代以降、ミュージカルの全ての構成要素を統べる要として台本が重要視されるようになり、その内容と様式は激変と言っても過言ではないほどの変化を蒙った。この授業では、BOOK MUSICAL と呼ばれるそれらのミュージカルの中から一作を選び、音楽を聴きながら精読することで、台本からミュージカルの特性を理解することを目指す。	
授業概要	
英語のミュージカル台本の精読。出来れば数種類の音源を聴きながら、実際の舞台を想像しつつ精読する。作品は未定。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
テキストは授業開始時に配布する。受講者には精読箇所を毎回翻訳してもらうので、予習を欠かさないように。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業での翻訳の成果	50
授業中の態度(積極性、意欲、予習の程度など)	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作成する。
授業概要
学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをして、論文を仕上げるまでを指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこと。1年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を発表できるようにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題提出	70
個人発表	30

教科書			
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:各個人の研究分野について発表・相談
2	論文とはどういうものか
3	図書館の利用、資料収集について
4	専門領域における論文のテーマ決定
5	各個人について、論文のテーマのための読書リスト作り
6	文献引用について、原稿の書き方など
7	論文の章立て
8	論文チェック
9	論文チェック
10	中間発表:各個人が執筆中の論文について発表をする
11	論文チェック
12	論文チェック
13	論文チェック
14	論文チェック
15	前期論文提出
16	前期提出の論文について返却と講評
17	新しい視点と調査について
18	論文を仕上げるまでの計画
19	論文執筆しながらの研究について
20	論文チェック
21	論文チェック
22	論文チェック
23	論文チェック
24	論文チェック
25	論文チェック
26	論文チェック
27	グループ内で論文発表

28	論文チェック
29	論文最終チェック
30	後期論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
文芸学・演劇学で修士論文を書くための基礎知識を学び、具体的な作品分析をおこなう。
授業概要
受講者それぞれの研究テーマにあわせ、まずは先行論文を丁寧に読み解き、論文の問題設定や構成を学ぶ。 そのうえで実際に作品の分析を試みる。 参加者同士の活発な質疑応答を期待する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究発表には相当の準備が必要となる。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の研究テーマに応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の研究テーマに応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	勝田 安彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
今、ミュージカルと呼ばれている演劇は 20 世紀にアメリカで形成発展して来た。初期に於いては極めて杜撰な台本が多かったが、1940 年代以降、ミュージカルの全ての構成要素を統べる要として台本が重要視されるようになり、その内容と様式は激変と言っても過言ではないほどの変化を蒙った。この授業では、BOOK MUSICAL と呼ばれるそれらのミュージカルの中から一作を選び、音楽を聴きながら精読することで、台本からミュージカルの特性を理解することを目指す。	
授業概要	
英語のミュージカル台本の精読。出来れば数種類の音源を聴きながら、実際の舞台を想像しつつ精読する。作品は未定。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
テキストは授業開始時に配布する。受講者には精読箇所を毎回翻訳してもらうので、予習を欠かさないように。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業での翻訳の成果	50
授業中の態度(積極性、意欲、予習の程度など)	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作成する。
授業概要
学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをして、論文を仕上げるまでを指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこと。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を発表できるようにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
課題提出	70
授業内発表	30

教科書			
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
文芸学・演劇学に関する論文の読解と受講者による研究発表をおこなう。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作成する。
授業概要
学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをして、論文を仕上げるまでを指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこと。1年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を発表できるようにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
課題提出	70
個人発表	30

教科書			
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:各個人の研究分野について発表・相談
2	論文とはどういうものか
3	図書館の利用、資料収集について
4	専門領域における論文のテーマ決定
5	各個人について、論文のテーマのための読書リスト作り
6	文献引用について、原稿の書き方など
7	論文の章立て
8	論文チェック
9	論文チェック
10	中間発表:各個人が執筆中の論文について発表をする
11	論文チェック
12	論文チェック
13	論文チェック
14	論文チェック
15	前期論文提出
16	前期提出の論文について返却と講評
17	新しい視点と調査について
18	論文を仕上げるまでの計画
19	論文執筆しながらの研究について
20	論文チェック
21	論文チェック
22	論文チェック
23	論文チェック
24	論文チェック
25	論文チェック
26	論文チェック
27	グループ内で論文発表

28	論文チェック
29	論文最終チェック
30	後期論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
文芸学・演劇学で修士論文を書くための基礎知識を学び、具体的な作品分析をおこなう。
授業概要
受講者それぞれの研究テーマにあわせ、まずは先行論文を丁寧に読み解き、論文の問題設定や構成を学ぶ。 そのうえで実際に作品の分析を試みる。 参加者同士の活発な質疑応答を期待する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究発表には相当の準備が必要となる。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の研究テーマに応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の研究テーマに応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作成する。
授業概要
学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをして、論文を仕上げるまでを指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこと。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を発表できるようにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
課題提出	70
授業内発表	30

教科書			
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
文芸学・演劇学に関する論文の読解と受講者による研究発表をおこなう。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作成する。
授業概要
学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをして、論文を仕上げるまでを指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこと。1年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を発表できるようにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題提出	70
個人発表	30

教科書			
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:各個人の研究分野について発表・相談
2	論文とはどういうものか
3	図書館の利用、資料収集について
4	専門領域における論文のテーマ決定
5	各個人について、論文のテーマのための読書リスト作り
6	文献引用について、原稿の書き方など
7	論文の章立て
8	論文チェック
9	論文チェック
10	中間発表:各個人が執筆中の論文について発表をする
11	論文チェック
12	論文チェック
13	論文チェック
14	論文チェック
15	前期論文提出
16	前期提出の論文について返却と講評
17	新しい視点と調査について
18	論文を仕上げるまでの計画
19	論文執筆しながらの研究について
20	論文チェック
21	論文チェック
22	論文チェック
23	論文チェック
24	論文チェック
25	論文チェック
26	論文チェック
27	グループ内で論文発表

28	論文チェック
29	論文最終チェック
30	後期論文提出

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
文芸学・演劇学で修士論文を書くための基礎知識を学び、具体的な作品分析をおこなう。
授業概要
受講者それぞれの研究テーマにあわせ、まずは先行論文を丁寧に読み解き、論文の問題設定や構成を学ぶ。 そのうえで実際に作品の分析を試みる。 参加者同士の活発な質疑応答を期待する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究発表には相当の準備が必要となる。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の研究テーマに応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の研究テーマに応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	文芸学・演劇学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
各個人が学術的興味を抱いた領域の中で、テーマを設定し、修士論文を作成する。
授業概要
学術論文を書くための技術を身につけ、専門領域の中からテーマ選びをして、論文を仕上げるまでを指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
修士論文執筆の学生は、原稿チェックを受けながら論文の完成を目指すこと。1 年生は専門領域のテーマにそって、先行研究を調査し、その成果を発表できるようにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
課題提出	70
授業内発表	30

教科書			
教科書1	学生各々のテーマに応じて指導する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			

科目名	文学創作特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	玄 月				
クラス名					

授業目的と到達目標	
タイプの違ういくつかの短編小説の構造分析を行い、文体、構成を研究する。 短編を創作するとともに、批評眼を養う。	
授業概要	
これまで漫然と読んできたであろう小説から、視点、文体、構成、長所、欠点、作者の癖などを洗い出し、詳しく分析する。 そこで得た「小説の技法」を元に、短編を創作し、批評し合う。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
読む・書くだけでなく、人の話をよく聞き、理解すること。指定された本は精読すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題はすべて提出。主体的な授業参加 3 分の 2 以上	100

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
芥川賞作家としての経験を活かし、創作技法や批評眼を習得させる。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	一年間の授業概要とスケジュールの説明。
2	教授による短編小説の構造分析。
3	教授による短編小説の構造分析。
4	教授による短編小説の構造分析。
5	教授による短編小説の構造分析。
6	教授による短編小説の構造分析。
7	教授による短編小説の構造分析。
8	教授による短編小説の構造分析。
9	教授による短編小説の構造分析。
10	教授による短編小説の構造分析。
11	教授による短編小説の構造分析。
12	教授による短編小説の構造分析。
13	院生による短編小説の構造分析。
14	院生による短編小説の構造分析。
15	院生による短編小説の構造分析。
16	自由課題での創作と批評
17	自由課題での創作と批評
18	自由課題での創作と批評
19	自由課題での創作と批評
20	自由課題での創作と批評
21	自由課題での創作と批評
22	自由課題での創作と批評
23	自由課題での創作と批評
24	自由課題での創作と批評
25	自由課題での創作と批評
26	自由課題での創作と批評

27	自由課題での創作と批評
28	自由課題での創作と批評
29	自由課題での創作と批評
30	自由課題での創作と批評

科目名	文学創作特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	玄 月				
クラス名					

授業目的と到達目標
タイプの違ういくつかの短編小説の構造分析を行い、文体、構成を研究する。 短編を創作するとともに、批評眼を養う。
授業概要
これまで漫然と読んできたであろう小説から、視点、文体、構成、長所、欠点、作者の癖などを洗い出し、詳しく分析する。 そこで得た「小説の技法」を元に、短編を創作し、批評し合う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
読む・書くだけでなく、人の話をよく聞き、理解すること。指定された本は精読すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
課題はすべて提出。主体的な授業参加 3 分の 2 以上	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
芥川賞作家としての経験を活かし、創作技法や批評眼を習得させる。
教員実務経験
芥川賞作家

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	一年間の授業概要とスケジュールの説明。
2	教授による短編小説の構造分析。
3	教授による短編小説の構造分析。
4	教授による短編小説の構造分析。
5	教授による短編小説の構造分析。
6	教授による短編小説の構造分析。
7	教授による短編小説の構造分析。
8	教授による短編小説の構造分析。
9	教授による短編小説の構造分析。
10	教授による短編小説の構造分析。
11	教授による短編小説の構造分析。
12	教授による短編小説の構造分析。
13	院生による短編小説の構造分析。
14	院生による短編小説の構造分析。
15	院生による短編小説の構造分析。
16	自由課題での創作と批評
17	自由課題での創作と批評
18	自由課題での創作と批評
19	自由課題での創作と批評
20	自由課題での創作と批評
21	自由課題での創作と批評
22	自由課題での創作と批評
23	自由課題での創作と批評
24	自由課題での創作と批評
25	自由課題での創作と批評
26	自由課題での創作と批評

27	自由課題での創作と批評
28	自由課題での創作と批評
29	自由課題での創作と批評
30	自由課題での創作と批評

科目名	文学創作特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	玉岡 かおる				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
実作の指導が中心なので、個人指導に近い形で行う。 毎回、最新の出版物からプロの書いた作品を取り上げ、鑑賞と合評を行う。受講者にも積極的に書いてもらうが、できれば年間（あるいは生涯の）テーマを選定し、それを軸に書き続けてもらい、年間でしっかりとした創作作品を仕上げてもらうよう指導していく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
特に必須とはしないが、指導する教員（玉岡かおる）の作品は本学図書館にも収蔵されているので、いくつか読んでおいてもらった方が、その方向性やテイストもわかっていただきやすいように思う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
前期・後期にそれぞれ1作ずつ、オリジナル作品を仕上げてもらい、それによって評価したい。	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	につぼん聖地巡拝の旅		
出版社名	大法輪閣	著者名	玉岡かおる
参考書名2	につぼん聖地巡拝の旅 あずま下り編		
出版社名	大法輪閣	著者名	玉岡かおる
参考書名3	夕焼けエッセー		
出版社名	夕焼けエッセー	著者名	玉岡かおる/眉村卓

科目名	文学創作特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	玉岡 かおる				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
毎回、最新の出版物からプロの書いた作品を取り上げ、鑑賞と合評を行う。 また、受講者にも積極的に書いてもらうが、その合評には手間と暇をかけていく。 課題は出さないが、媒体やテーマに応じて書き分けるトレーニングは継続する。 できれば年間(あるいは生涯の)テーマを選定し、それを軸に掻き続けてもらい、年間でしっかりとした創作作品を仕上げてもらうよう指導していく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
特に必須とはしないが、指導する教員(玉岡かおる)の作品は本学図書館にも収蔵されているので、いくつか読んでおいてもらった方が、その方向性やテイストもわかっていただきやすいのでは、と考える。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
前期・後期にそれぞれ1作ずつ、オリジナル作品を仕上げてもらい、それによって評価したい。	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	にっぽん聖地巡拝の旅		
出版社名	大法輪閣	著者名	玉岡かおる
参考書名2	にっぽん聖地巡拝の旅 あずま下り編		
出版社名	大法輪閣	著者名	玉岡かおる
参考書名3	夕焼けエッセー		

科目名	文芸学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	福井 慎二				
クラス名					

授業目的と到達目標
昭和文学の古典と言える太宰治の作品を読むことで小説の書き方・表現を学んだり、教員志望の受講者にとって教材研究に役立てることを目的にする。太宰の作品理解を深めることを目標とする
授業概要
受講者が太宰の初期・中期の作品を読み、作品を理解する上で何を問題にしたらいいか考えたことを毎回発表し討論する。アニメ・映画も参照して言語表現と映像表現との違いなどを感じて、作品理解を深められるようにする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
作品を読んで問題点を考え、授業で意見発表できるように準備することが必要。作品を読むのに 30 分～数時間かかり、問題点を考えるのに数時間必要となる。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
主体的な授業参加	30
レポートまたは授業の発表担当	70

教科書			
教科書1	授業中にプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
太宰の作品は著作権切れのため「青空文庫」のホームページで無料で閲覧・ダウンロード可能です。国立国会図書館の蔵書検索通じてでも閲覧できます。手持ちの本も利用してください。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1ガイダンス・発表担当者決定 太宰の伝記 太宰の作品は私小説のため、伝記確認して作品理解に役立てる。
2	2私小説について(講義)その1 大正時代に私小説が生まれた文学史的状況と私小説をめぐる論争、現代の私小説作家の捉え方を確認する。
3	3私小説について(講義)その2 レポートの書き方 近松秋江・葛西善蔵・嘉村礒多・牧野信一の作品を取り上げて私小説の表現の特徴を探り、私小説のテーマや作品世界を確認して、太宰の私小説を理解するのに役立てる。
4	4「魚服記」(以下レポート発表と討議) 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
5	5「猿面冠者」 入れ子構造の小説形式を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
6	6「思ひ出」ビデオ鑑賞 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
7	7「道化の華」映画「ピカレスク 人間失格」参照 太宰のメタフィクションの独自性を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
8	8「狂言の神」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
9	9「虚構の春」 太宰の書簡体小説の独自性を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
10	10「ダス・ゲマイネ」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
11	11「二十世紀旗手」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
12	12「HUMAN LOST」映画「ピカレスク 人間失格」参照

	発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
13	13「姥捨」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
14	14「富嶽百景」その1 TVドラマ・映画「富嶽百景」鑑賞 言語表現と映像表現との違いなどを感じるべく、『富嶽百景』の映画の特徴を確認し参照し、次回の討論に役立てる。
15	15「富嶽百景」その2 レポート発表と討論 【授業中の発表を担当しなかった学生のレポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
16	16 ガイダンス・レポート返却・発表担当者決定
17	17『秋風記』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
18	18『女生徒』 アニメ「女生徒」鑑賞 朗読CD 太宰の女性独白体の特徴を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
19	19『駆け込み訴へ』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
20	20『カチカチ山』（『御伽草紙』①） 参考DVD「桃太郎 海の神兵」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
21	21『浦島さん』（『御伽草紙』②） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
22	22『走れメロス』その1 アニメ「走れメロス」鑑賞 言語表現と映像表現との違いなどを感じるべく、『走れメロス』のアニメの特徴を確認し参照し、次回の討論に役立てる。
23	23『走れメロス』その2 レポート発表と討論 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
24	24『竹青』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
25	25『新樹の言葉』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
26	26『右大臣実朝』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
27	27『瘤取り』（『御伽草紙』③） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
28	28『貧の意地』（『新釈諸国噺』Ⅰ） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
29	29『赤い太鼓』（『新釈諸国噺』Ⅱ） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
30	30『津軽』 【授業中の発表を担当しなかった学生のレポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】

科目名	文芸学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	福井 慎二				
クラス名					

授業目的と到達目標
昭和文学の古典と言える太宰治の作品を読むことで小説の書き方・表現を学んだり、教員志望の受講者にとって教材研究に役立てることを目的にする。太宰の作品理解を深めることを目標とする
授業概要
受講者が太宰の初期・中期の作品を読み、作品を理解する上で何を問題にしたらいいか考えたことを毎回発表し討論する。アニメ・映画も参照して言語表現と映像表現との違いなどを感じて、作品理解を深められるようにする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
作品を読んで問題点を考え、授業で意見発表できるように準備することが必要。作品を読むのに 30 分～数時間かかり、問題点を考えるのに数時間必要となる。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
主体的な授業参加	30
レポートまたは授業の発表担当	70

教科書			
教科書1	授業中にプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
太宰の作品は著作権切れのため「青空文庫」のホームページで無料で閲覧・ダウンロード可能です。国立国会図書館の蔵書検索通じても閲覧できます。手持ちの本も利用してください。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1ガイダンス・発表担当者決定 太宰の伝記 太宰の作品は私小説のため、伝記確認して作品理解に役立てる。
2	2私小説について(講義)その1 大正時代に私小説が生まれた文学史的状況と私小説をめぐる論争、現代の私小説作家の捉え方を確認する。
3	3私小説について(講義)その2 レポートの書き方 近松秋江・葛西善蔵・嘉村礒多・牧野信一の作品を取り上げて私小説の表現の特徴を探り、私小説のテーマや作品世界を確認して、太宰の私小説を理解するのに役立てる。
4	4「魚服記」(以下レポート発表と討議) 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
5	5「猿面冠者」 入れ子構造の小説形式を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
6	6「思ひ出」ビデオ鑑賞 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
7	7「道化の華」映画「ピカレスク 人間失格」参照 太宰のメタフィクションの独自性を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
8	8「狂言の神」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
9	9「虚構の春」 太宰の書簡体小説の独自性を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
10	10「ダス・ゲマイネ」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
11	11「二十世紀旗手」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
12	12「HUMAN LOST」映画「ピカレスク 人間失格」参照

	発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
13	13「姥捨」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
14	14「富嶽百景」その1 TVドラマ・映画「富嶽百景」鑑賞 言語表現と映像表現との違いなどを感じるべく、『富嶽百景』の映画の特徴を確認し参照し、次回の討論に役立てる。
15	15「富嶽百景」その2 レポート発表と討論 【授業中の発表を担当しなかった学生のレポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
16	16 ガイダンス・レポート返却・発表担当者決定
17	17『秋風記』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
18	18『女生徒』 アニメ「女生徒」鑑賞 朗読CD 太宰の女性独白体の特徴を確認する。発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
19	19『駆け込み訴へ』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
20	20『カチカチ山』（『御伽草紙』①） 参考DVD「桃太郎 海の神兵」 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
21	21『浦島さん』（『御伽草紙』②） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
22	22『走れメロス』その1 アニメ「走れメロス」鑑賞 言語表現と映像表現との違いなどを感じるべく、『走れメロス』のアニメの特徴を確認し参照し、次回の討論に役立てる。
23	23『走れメロス』その2 レポート発表と討論 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
24	24『竹青』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
25	25『新樹の言葉』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
26	26『右大臣実朝』 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
27	27『瘤取り』（『御伽草紙』③） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
28	28『貧の意地』（『新釈諸国噺』Ⅰ） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
29	29『赤い太鼓』（『新釈諸国噺』Ⅱ） 発表担当者が作品を理解するうえで問題にすべきことを報告し、受講者がそれに質問・意見発表し討論する
30	30『津軽』 【授業中の発表を担当しなかった学生のレポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】

科目名	演劇学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
受講者による演劇作品(ミュージカル・オペラを含む)の研究発表と質疑応答をおこなう。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	演劇学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
受講者による演劇作品（ミュージカル・オペラを含む）の研究発表と質疑応答をおこなう。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時上演ビデオを利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
発表は、受講者それぞれの関心に即して行ってもらう。 何に、どのような興味があるのか。よく探ってみて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人の関心に応じて指導する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	原典研究Ⅴ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「古事記」・「日本書紀」・「万葉集」などの日本の上代文学について、基礎的なことを学び、実際の作品を読んで理解を深め、上代文学に親しむことを目的とする。
授業概要
前期は「古事記」を中心に有名な神話や伝説を読んでいく。後期は日本最古の和歌集「万葉集」の歌を読んでいく。これらの文学作品を読むことによって、当時の人々のものの見方や感じ方をうかがい知ることができよう。また、これらの文学作品が現代にどのような影響を与えているかということも考察する。授業では漢文や万葉仮名で書かれた原文に触れ、各自担当箇所を決めて輪読形式で進めていく。 また、学生の興味関心に応じて随時研究発表を取り入れていく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
古語辞典(出版社問わず・電子辞書可)は必ず用意すること。 「古事記」および「万葉集」の本文が載っているテキスト(文庫本でよい)があれば望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
発表	50
レポート	25
授業に取り組む姿勢	25

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	上代文学入門 基礎知識と資料の紹介
2	古事記を読む 上巻(神代)
3	古事記を読む 上巻(神代)
4	古事記を読む 上巻(神代)
5	古事記を読む 上巻(神代)
6	古事記を読む 上巻(神代)
7	古事記を読む 上巻(神代)
8	古事記を読む 中・下巻(人代)
9	古事記を読む 中・下巻(人代)
10	古事記を読む 中・下巻(人代)
11	古事記を読む 中・下巻(人代)
12	古事記を読む 中・下巻(人代)
13	古事記と日本書紀
14	風土記の世界
15	前期のまとめとレポートについての注意
16	「万葉集」について 基礎知識と資料の紹介
17	万葉集を読む 第1期の歌人と作品
18	万葉集を読む 第1期の歌人と作品
19	万葉集を読む 第1期の歌人と作品
20	万葉集を読む 第2期の歌人と作品
21	万葉集を読む 第2期の歌人と作品
22	万葉集を読む 第2期の歌人と作品
23	万葉集を読む 第3期の歌人と作品

24	万葉集を読む 第3期の歌人と作品
25	万葉集を読む 第4期の歌人と作品
26	万葉集を読む 第4期の歌人と作品
27	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答①
28	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答②
29	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答③
30	後期のまとめと学年末レポートについての注意。

科目名	原典研究Ⅴ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「古事記」・「日本書紀」・「万葉集」などの日本の上代文学について、基礎的なことを学び、実際の作品を読んで理解を深め、上代文学に親しむことを目的とする。
授業概要
前期は「古事記」を中心に有名な神話や伝説を読んでいく。後期は日本最古の和歌集「万葉集」の歌を読んでいく。これらの文学作品を読むことによって、当時の人々のものの見方や感じ方をうかがい知ることができよう。また、これらの文学作品が現代にどのような影響を与えているかということも考察する。授業では漢文や万葉仮名で書かれた原文に触れ、各自担当箇所を決めて輪読形式で進めていく。 また、学生の興味関心に応じて随時研究発表を取り入れていく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
古語辞典(出版社問わず・電子辞書可)は必ず用意すること。 「古事記」および「万葉集」の本文が載っているテキスト(文庫本でよい)があれば望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
発表	50
レポート	25
授業に取り組む姿勢	25

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	上代文学入門 基礎知識と資料の紹介
2	古事記を読む 上巻(神代)
3	古事記を読む 上巻(神代)
4	古事記を読む 上巻(神代)
5	古事記を読む 上巻(神代)
6	古事記を読む 上巻(神代)
7	古事記を読む 上巻(神代)
8	古事記を読む 中・下巻(人代)
9	古事記を読む 中・下巻(人代)
10	古事記を読む 中・下巻(人代)
11	古事記を読む 中・下巻(人代)
12	古事記を読む 中・下巻(人代)
13	古事記と日本書紀
14	風土記の世界
15	前期のまとめとレポートについての注意
16	「万葉集」について 基礎知識と資料の紹介
17	万葉集を読む 第1期の歌人と作品
18	万葉集を読む 第1期の歌人と作品
19	万葉集を読む 第1期の歌人と作品
20	万葉集を読む 第2期の歌人と作品
21	万葉集を読む 第2期の歌人と作品
22	万葉集を読む 第2期の歌人と作品
23	万葉集を読む 第3期の歌人と作品

24	万葉集を読む 第3期の歌人と作品
25	万葉集を読む 第4期の歌人と作品
26	万葉集を読む 第4期の歌人と作品
27	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答①
28	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答②
29	各自の問題意識を生かした研究発表および質疑応答③
30	後期のまとめと学年末レポートについての注意。

科目名	文芸学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
この授業では、英国の風土や歴史を基にしながら、社会文化や風俗習慣、人々の日常生活を図版や映像を使って紹介していく。日本の文化と比較しながら、様々なトピックについて小説を読んだり映画を見ることでイギリス文学の背景を知る。
授業概要
毎回ハンドアウトを配布し、あるテーマにそってイギリスの文化と文学を理解する知識を学ぶ。英国といえばアフタヌーン・ティーやピーター・ラビットがすぐ浮かぶが、この紅茶の伝統も、本はといえば中国や日本の茶から始まったこと、あのかわいいピーター・ラビットは英国の自然環境を守るナショナル・トラストの影の功労者となっていること、ハリー・ポッターには英国の教育制度が色濃く現れていることなどが分かるだろう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業時に、読むべき小説や映画、参考文献などを紹介するので、様々な文学作品に触れることが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業貢献度	70
授業内発表	30

教科書			
教科書1	毎回授業時にハンドアウトを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス: 英国は1つなのか? イングランド、ウェールズ、スコットランドと北アイルランドのお話
2	イギリスのファッション(1) 贅沢禁止法とファッションの流行を歴史的に考察する
3	イギリスのファッション(2) イギリス 16 世紀にプロジェクトXを立ち上げた貴族たち
4	教育制度とハリー・ポッター ハリーたちが勉強した寮生活とは
5	英国王室と王の結婚 ノルマン人による征服から始まる王家の歴史について
6	王室の歴史
7	ナショナル・トラストとピーター・ラビット 自然を保護するために購入するという考え
8	英国料理は不味いのか ヘンリー8 世が食べていたもの
9	料理と小説 イギリス流食事風景
10	イギリスのスポーツ(1) 登山、ボート、テニス、釣り...すべてスポーツ
11	イギリスのスポーツ(2)
12	イギリスの医療と福祉 病院の成り立ち
13	イギリス映画と文化表象 イギリス人の暮らしがわかる映画
14	イギリス小説あれこれ
15	まとめ
16	ガイダンス: 前期の復習と後期の内容
17	絵画からみる文化
18	イギリス人にとっての肖像画 肖像画は何を伝えようとしているのか
19	パブの文化 ビールの歴史
20	紅茶とイギリス文化(1) アフタヌーンティ
21	紅茶とイギリス文化(2)
22	イギリス映画
23	イングリッシュ・ガーデンの歴史(1) 庭園と文学、絵画のつながり
24	イングリッシュ・ガーデンの歴史(2)
25	ヴィクトリア朝とシャーロック・ホームズ 探偵小説の舞台
26	イギリス演劇とシェイクスピア
27	エリザベス朝の文化

28	イギリスの児童文学(1)
29	イギリスの児童文学(2)
30	まとめ

科目名	文芸学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
この授業では、英国の風土や歴史を基にしながら、社会文化や風俗習慣、人々の日常生活を図版や映像を使って紹介していく。日本の文化と比較しながら、様々なトピックについて小説を読んだり映画を見ることでイギリス文学の背景を知る。
授業概要
毎回ハンドアウトを配布し、あるテーマにそってイギリスの文化と文学を理解する知識を学ぶ。英国といえばアフタヌーン・ティーやピーター・ラビットがすぐ浮かぶが、この紅茶の伝統も、本はといえば中国や日本の茶から始まったこと、あのかわいいピーター・ラビットは英国の自然環境を守るナショナル・トラストの影の功労者となっていること、ハリー・ポッターには英国の教育制度が色濃く現れていることなどが分かるだろう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業時に、読むべき小説や映画、参考文献などを紹介するので、様々な文学作品に触れることが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題レポート	70
授業内発表	30

教科書			
教科書1	テキストは使わず、ハンドアウトを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	前期参照
2	前期参照
3	前期参照
4	前期参照
5	前期参照
6	前期参照
7	前期参照
8	前期参照
9	前期参照
10	前期参照
11	前期参照
12	前期参照
13	前期参照
14	前期参照
15	前期参照
16	ガイダンス:前期の復習と後期の学習について
17	絵画からみる文化
18	イギリス人にとっての肖像画 肖像画は何を伝えようとしているのか
19	パブの文化 ビールの歴史
20	紅茶とイギリス文化(1) アフタヌーンティ
21	紅茶とイギリス文化(2)
22	イギリス映画
23	イングリッシュ・ガーデンの歴史(1) 庭園と文学、絵画のつながり
24	イングリッシュ・ガーデンの歴史(2)
25	ヴィクトリア朝とシャーロック・ホームズ 探偵小説の舞台
26	イギリス演劇とシェイクスピア
27	エリザベス朝の文化

28	イギリスの児童文学(1)
29	イギリスの児童文学(2)
30	後期のまとめ

科目名	演劇学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
オペラから映画まで、「身体と言葉」の芸術である演劇を幅広くとらえ、その特徴を丁寧に探りたい。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD (演劇・映画等 大阪芸術大学図書館所蔵) を利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講者それぞれが、まずは自分の興味のありかをよく探してほしい。 相談や質問には、丁寧に答えていく。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人のテーマに応じて随時紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の進め方、発表日程や作品についての相談
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	演劇学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	出口 逸平				
クラス名					

授業目的と到達目標
オペラから映画まで、「身体と言葉」の芸術である演劇を幅広くとらえ、その特徴を丁寧に探りたい。
授業概要
受講者の研究発表と質疑応答によって、授業をすすめる。 取り上げる作品は、受講者の希望をできるかぎり尊重したい。 随時 DVD(演劇・映画等)を利用する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
受講者それぞれが、まずは自分の興味のありかをよく探してほしい。 相談や質問には、丁寧に答えていく。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	各人のテーマに応じて随時紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の進め方、発表日程や作品についての相談
2	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
3	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
4	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
5	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
6	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
7	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
8	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
9	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
10	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
11	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
12	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
13	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
14	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
15	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
16	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
17	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
18	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
19	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
20	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
21	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
22	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
23	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
24	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
25	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
26	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
27	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
28	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

29	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。
30	授業時間は、受講者それぞれのテーマに応じた研究発表と討論に充てられる。

科目名	音楽学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常成績 (研究発表および討論への参加)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

科目名	音楽学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標	
先行研究の研究に留まるのではなく、根拠のしっかりしていない自分の考えに走るのでもなく、読書に裏付けられた思考を展開し、それを学位論文につなげられるよう、共に考えるという姿勢で指導を行なう。	
授業概要	
受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常成績(研究発表および討論への参加)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	音楽学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標					
先行研究の研究に留まるのではなく、根拠のしっかりしていない自分の考えに走るのでもなく、読書に裏付けられた思考を展開し、それを学位論文につなげられるよう、共に考えるという姿勢で指導を行なう。					
授業概要					
受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常成績(研究発表および討論への参加)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	音楽学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標	
先行研究の研究に留まるのではなく、根拠のしっかりしていない自分の考えに走るのでもなく、読書に裏付けられた思考を展開し、それを学位論文につなげられるよう、共に考えるという姿勢で指導を行なう。	
授業概要	
受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常成績(研究発表および討論への参加)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	音楽学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標					
先行研究の研究に留まるのではなく、根拠のしっかりしていない自分の考えに走るのでもなく、読書に裏付けられた思考を展開し、それを学位論文につなげられるよう、共に考えるという姿勢で指導を行なう。					
授業概要					
受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常成績(研究発表および討論への参加)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	音楽学研究演習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標					
先行研究の研究に留まるのではなく、根拠のしっかりしていない自分の考えに走るのでもなく、読書に裏付けられた思考を展開し、それを学位論文につなげられるよう、共に考えるという姿勢で指導を行なう。					
授業概要					
受講者の研究発表を中心とし、それをめぐる討論を研究の発展につなげる。また、先人の思考を自らの思考とできるような文献研究を行なう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
十分な準備をして研究発表をすることが重要である。					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常成績(研究発表および討論への参加)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	演奏特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					

授業目的と到達目標	
ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 ウィーン古典派の協奏曲から 1～2 曲、ロマン派以降の協奏曲から 1～2 曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。	
授業概要	
対面授業にて実施する。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方をピアノ 2 台形式で学ぶ。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
各々が研究する楽曲の分析、練習。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	60%
テスト	40%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2 台ピアノ譜		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
出席回数が全授業回数の3分の2以上に達しない場合は単位を付与しない。
教員実務経験
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
3	各々が選曲した楽曲の1楽章
4	1楽章の続き
5	1楽章 カデンツを加えて
6	1楽章の仕上げ
7	2楽章
8	2楽章 仕上げ
9	終楽章
10	終楽章の続き
11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
13	指揮者の視点から協奏曲を考察し、オーケストラパートをピアノで演奏する
14	全楽章の復習、仕上げ
15	全楽章の仕上げとテスト
16	ロマン派以降の協奏曲について 後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
17	各々が選曲した楽曲の1楽章
18	1楽章の続き
19	1楽章 カデンツを加えて
20	1楽章の仕上げ
21	2楽章
22	2楽章の続き
23	2楽章の仕上げ
24	終楽章
25	終楽章の続き

26	終楽章の仕上げ
27	選曲した楽曲の CD 及び DVD 鑑賞
28	指揮者の視点から協奏曲を考察し、オーケストラパートをピアノで演奏する
29	全楽章の復習、仕上げ
30	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					

授業目的と到達目標	
ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 ウィーン古典派の協奏曲から 1～2 曲、ロマン派以降の協奏曲から 1～2 曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。	
授業概要	
対面授業にて実施する。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方をピアノ 2 台形式で学ぶ。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
各々が研究する楽曲の分析、練習。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	60%
テスト	40%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2 台ピアノ譜		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
出席回数が全授業回数の3分の2以上に達しない場合は単位を付与しない。
教員実務経験
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
3	各々が選曲した楽曲の1楽章
4	1楽章の続き
5	1楽章 カデンツを加えて
6	1楽章の仕上げ
7	2楽章
8	2楽章 仕上げ
9	終楽章
10	終楽章の続き
11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
13	指揮者の視点から考察し、オーケストラパートを演奏する
14	全楽章の復習、仕上げ
15	全楽章の仕上げとテスト
16	ロマン派以降の協奏曲について 後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
17	各々が選曲した楽曲の1楽章
18	1楽章の続き
19	1楽章 カデンツを加えて
20	1楽章の仕上げ
21	2楽章
22	2楽章の続き
23	2楽章の仕上げ
24	終楽章
25	終楽章の続き

26	終楽章の仕上げ
27	選曲した楽曲の CD 及び DVD 鑑賞
28	指揮者の視点から考察し、オーケストラパートを演奏する
29	全楽章の復習、仕上げ
30	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	○伊勢 敏之、本田 耕一				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
対面授業 ・取り上げる楽曲を決め、楽曲や作曲家について研究してきたことをプレゼンテーションする。 ・楽曲分析をする。また分析のノウハウなどを学ぶ。 ・研究した成果を通じて、実際の演奏へと反映し、以前の演奏とどう変わったかを確認する。 ・CD、DVD等の鑑賞を通じた秀逸な演奏の研究。 ・録音をし、自らの演奏を客観的にチェック。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究したい楽曲を決定し、教員や伴奏者の分など、必要に応じた楽譜を準備する。 次回までのやるべき課題を課すので、必ずやり遂げる。 ※受講者数、研究や練習状況の進捗、取り組み曲の規模などによっては 研究で取り上げる曲を減らすことがある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講姿勢、課題の達成状況など）	50％
研究レポート・プレゼンテーションの内容	50％

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ● 第1回 ガイダンス(方針説明、成績評価方法の説明等) 取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)] ● 第2回 作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第3回 取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第4回 取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第5回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第5回 取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第6回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第6回

取り組む楽曲の分析④

各フレーズのデザイン、表情・表現について

演奏実践

[第7回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第7回

研究成果の演奏発表 録音・録画など

学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[第8回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ]

● 第8回

取り組む楽曲や研究課題の相談・方針決定

[第9回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)]

● 第9回

作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック

[第10回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第10回

取り組む楽曲の分析①

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第11回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第11回

取り組む楽曲の分析②

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第12回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第12回

取り組む楽曲の分析③

調性・和声について

演奏実践

[第13回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第13回

取り組む楽曲の分析④

各フレーズのデザイン、表情・表現について

演奏実践

[第14回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第14回

研究成果の演奏発表 録音・録画など

学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[illegible]

科目名	演奏特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	○伊勢 敏之、本田 耕一				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
対面授業 ・取り上げる楽曲を決め、楽曲や作曲家について研究してきたことをプレゼンテーションする。 ・楽曲分析をする。また分析のノウハウなどを学ぶ。 ・研究した成果を通じて、実際の演奏へと反映し、以前の演奏とどう変わったかを確認する。 ・CD、DVD等の鑑賞を通じた秀逸な演奏の研究。 ・録音をし、自らの演奏を客観的にチェック。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
研究したい楽曲を決定し、教員や伴奏者の分など、必要に応じた楽譜を準備する。 次回までのやるべき課題を課すので、必ずやり遂げる。 ※受講者数、研究や練習状況の進捗、取り組み曲の規模などによっては 研究で取り上げる曲を減らすことがある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講姿勢、課題の達成状況など）	50％
研究レポート・プレゼンテーションの内容	50％

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ● 第1回 ガイダンス(方針説明、成績評価方法の説明等) 取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)] ● 第2回 作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第3回 取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第4回 取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第5回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)] ● 第5回 取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第6回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第6回

取り組む楽曲の分析④

各フレーズのデザイン、表情・表現について

演奏実践

[第7回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第7回

研究成果の演奏発表 録音・録画など

学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[第8回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ]

● 第8回

取り組む楽曲や研究課題の相談・方針決定

[第9回へ向けてのレポートや Power Point などを用いた研究発表の準備と楽曲の練習(標準8時間)]

● 第9回

作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック

[第10回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第10回

取り組む楽曲の分析①

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第11回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第11回

取り組む楽曲の分析②

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第12回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第12回

取り組む楽曲の分析③

調性・和声について

演奏実践

[第13回へ向けた分析の予習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第13回

取り組む楽曲の分析④

各フレーズのデザイン、表情・表現について

演奏実践

[第14回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習(標準5時間)]

● 第14回

研究成果の演奏発表 録音・録画など

学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[illegible]

科目名	演奏特殊研究Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	阪本 朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
①想起した音(音の表情)をただちに声や楽器で実践できる能力を身につける ②自らの演奏(作品)の魅力を認識し、自己実現に至るプロセス(練習を含む)を構築する能力を身につける ③演奏する現場において、音楽は絶えず流動的である。臨機応変な対応力を身につける ④専攻がピアノの受講生には、即興演奏・アレンジメント奏法・コードネーム奏法の習得も目標とする	
授業概要	
・受講生全員参加型対面授業の予定(絶えずディスカッションできる環境を提唱します) ・常に即実践の姿勢で自らのパフォーマンスを磨く場と考えてください。毎回「パフォーマンス課題」を提示します ・作品への共感をいかに伝えるか、自己表現の挑戦と工夫を絶えず繰り返す場とします	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・毎回提示する「パフォーマンス課題」を予習、復習において徹底研究してください。 ・受講に際しては、自らが研究したい楽曲の楽譜は必要部数を準備して授業に臨んでください。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
成果発表パフォーマンス 100%	

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
動きやすい服装での参加を提示することがあります。
教員実務経験
ピアニスト

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 受講生の専攻分野を確認後、パフォーマンス課題を提示します。
2	パフォーマンス課題①の実践 各人の課題提出 パフォーマンス課題②の提示 パフォーマンス課題は、受講生の力量に応じて提示します。
3	パフォーマンス課題②の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題③提示
4	パフォーマンス課題③の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題④提示
5	パフォーマンス課題④の実践 各人の提示した課題曲の実践 パフォーマンス課題⑤提示
6	パフォーマンス課題⑤の実践 表現したい音の表情について、その習得法を記述する。
7	自ら課した練習プロセスの確認①
8	自ら課した練習プロセスの確認②
9	自ら課した練習プロセスの確認③
10	自ら課した練習プロセスの確認④
11	自ら課した練習プロセスの確認⑤
12	キーワードの再確認
13	前期成果発表に向けての準備①
14	前期成果発表に向けての準備②

[illegible]

科目名	演奏特殊研究Ⅲ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	阪本 朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
前期の目的と目標に加えて、基礎教養としての音楽、実社会へいかにつなげて行くかを探ります。 「知識」から「知識を動かす力」を身につけます。	
授業概要	
前期と概要はほぼ同じ 加えて、コミュニケーションツールとしての音楽の言語的側面を考える。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・提示する「パフォーマンス課題」を予習、復習において徹底研究してください。 ・受講に際しては、自らが研究したい楽曲の楽譜は必要部数を準備して授業に臨んでください。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
成果発表パフォーマンス 100%	

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
動きやすい服装での参加を提示することがあります。
教員実務経験
ピアニスト

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	今年度は前期の授業形態を継続致します(前期修了時に決定)。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
3	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
4	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
5	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
6	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
7	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
8	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
9	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
10	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
11	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
12	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
13	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
14	今年度は前期の授業形態を継続致します。 受講生各人の課題を全受講生で共有して頂き多角的な観点でディスカッションする能力を身につけます。
15	後期まとめ 演奏とプレゼンテーション

科目名	演奏特殊研究Ⅳ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	辻 浩二				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
「正しい楽譜の読み方」という資料をもとに、楽譜の記譜法について研究する。この本は(バッハからシューベルトまで)という副題があり、現在の記譜法との違いから、当時の作曲家がどのような演奏を望んだのかを考える。そして、ニューヨークフィル・バーンスタインの「ヤング・ピープルズ・コンサート」のビデオを鑑賞をし、音楽教育の必要性・方法等を考え、さらに、「芸術の売り方」という本を参考に、音楽マネジメントについて考えていく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
映像や文献のみを一方向的に勉強するのではなく、感想を含め自分の感性にどのように感じたか、そしてそのことが今後の自分の音楽人生にどのように影響するのか、それらを含めたディスカッションをしていく。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出課題の評価及び平常点	

教科書			
教科書1	「正しい楽譜の読み方」バッハからシューベルトまで ウィーン音楽大学インゴマー・ライナー教授		
出版社名	株式会社現代ギター社	著者名	大島富士子
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	古楽とは何か		
出版社名	音楽之友社	著者名	ニコラウス・アーノンクール
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

科目名	演奏特殊研究Ⅳ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	栗山 和樹				
クラス名	後期:栗山先生は集中講義です。				

授業目的と到達目標
授業概要
「ポピュラー音楽演奏の基礎」:ボサノバやジャズ・スタンダード ・ナンバーを教材にメロディ・フェイクにはじまり、アドリブをトライしてみます。コード・ネームやスケールなどポピュラー音楽演奏に必要な基本事項を学び、コードやベースラインなど簡単なアレンジもトライしてみます。ジャズの歴史を俯瞰することにより、どうしてこのような技法ができたかを考えます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
課題を必ず演習してみること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出課題の評価及び平常点	100

教科書			
教科書1	授業内で配布するハンドアウト		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
	1 日目 第1回「コードシンボル」 第2回「レフトハンド・ヴォイスिंगス」 第3回「フォー・ウェイ・クロス」 第4回「テンション① 9th」 第5回「テンション② 13th」 2 日目 第6回「テンション③ 振り子ベース」 第7回「スケール① リディア旋法」「映画を見る前のミニ・ジャズ史」 第8回「映画『ベニイ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史①」 第9回「映画『ベニイ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史②」 第 10 回 映画に出てきた重要なシーン 3 日目 第 11 回「枯葉 短調のヴォイスिंग」 第 12 回「4ビートのベース」 第 13 回「ブルース」 第 14 回「ドロップ2」 第 15 回質疑応答

科目名	演奏特殊研究Ⅴ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	水口 聡				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も越えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。さらに国際オペラコンクール、オペラ劇場を目指す学生の為のアドバイスを教授する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各自が取り組む曲目のアナリーゼ

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	演奏特殊研究Ⅴ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	水口 聡				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も越えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。さらに国際オペラコンクール、オペラ劇場を目指す学生の為のアドバイスを教授する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
各自が取り組む曲目のアナリーゼ

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

科目名	作曲特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標	
古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。 また、音響・映像機器、新世代楽器、ITとの関わりについても考察する。 洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器（道具）との関わりを実践的に追究するアプローチの方法を学ぶ。 また「美術と音楽」「建築と音楽」「映像と音楽」「文学と音楽」など、音楽以外の領域の履修者の専門領域と	
授業概要	
前半は日本音楽における歴史的な作品をテーマに、記譜法、楽器と奏法、演奏の場（社会）等の諸側面から特徴を考察する。次に日本の音楽界の現状を扱い、作曲家、演奏家、聴衆等について多角的に検討する。その後、受講生各自の研究課題に関わり、現代の日本音楽、国際的に様々な音楽種目に用いられる日本楽器の様相、メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げる。 音楽領域に留まるのではなく、他領域の受講生の参加を強く求め、芸術・文化・社会について多角的に議論したい。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
文化的な側面において急速に国際化の進む時代であるからこそ、日本音楽に関して、歴史と音楽の種類、文化的、地域的背景の理解に努めるとともに、日常的に好奇心を高めること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書			
教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	CD コレクションシリーズ 39「地無し尺八の可能性」解説書		
出版社名	浜松：浜松市楽器博物館	著者名	志村哲
参考書名2	『事典 世界音楽の本』		
出版社名	東京：岩波書店	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名3	『古管尺八の楽器学』		
出版社名	『古管尺八の楽器学』	著者名	志村哲
参考書名4	『コンピュータと音楽の世界』		
出版社名	東京：共立出版	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士（学術）の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	はじめに：日本の音楽研究における歴史的視点と科学的アプローチの諸領域について
2	楽器の種類と音楽1：日本の古代、中世の音楽と歴史的尺八（雅楽尺八、一節切、天吹）
3	楽器の種類と音楽2：作曲者のない 150 曲の虚無僧尺八（古典本曲）
4	楽器の種類と音楽3：演奏できなければ作れない三曲合奏
5	楽器の種類と音楽4：箏における楽器の歴史と記譜法、演奏技法
6	楽器の種類と音楽5：箏における楽器の改造と現代的展開 ～ 宮城道雄の発想 ～
7	楽器の種類と音楽6：三味線音楽のひろがり ～ 三味線はひとつではなく、非常にたくさんの種類がある ～
8	楽器の種類と音楽7：日本楽器における種々の分類法
9	楽器の種類と音楽8：近代における日本楽器改造の思想と音楽 ～ オークラウロの諸問題 ～
10	楽器の種類と音楽9：現代邦楽ブームとは何だったのか？
11	日本楽器の国際化の諸相
12	コンピュータ科学やテクノロジーを応用した日本音楽の追究 ～ Cyber 尺八：人間とコンピュータとの協調あるいは、対峙 ～
13	西洋的電子楽器と日本的電子楽器についての考察 ～ 電子邦楽開発の歴史と今後の可能性 ～
14	音楽作品上演における VR（ヴァーチャル・リアリティ）と真実との関係あるいは、現実的な作品の位置づけについて

	て ～ 演奏家はこれか らも必要？ ～
15	前期の総括とディスカッション
16	後期のはじめに：日本社会における音楽・音楽家と、日本の楽器の現状について
17	今日の日本音楽の特徴1：日本楽器製作者とそれを支える社会
18	今日の日本音楽の特徴2：日本伝統音楽の伝承・教育・継承者について
19	日本音楽のための DTM(デスクトップ・ミュージック)システム
20	音楽資料の歴史的保存のための情報収集・分析と発信 ～ IT 社会のための情報音楽 Web 博物館の未来 ～
21	受講生各自の研究テーマに則った課題設定1
22	受講生各自の研究テーマに則った課題設定2
23	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
24	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
25	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
26	研究発表とディスカッション(受講生の人数、テーマにより詳細を確定)
27	プレゼンテーションと講評
28	プレゼンテーションと講評
29	未来の予測、あるいは期待(レクチャーとディスカッション)
30	課題の完成、提出と総評

科目名	作曲特殊研究Ⅰ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標
注:本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、 同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。 古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。 また、音響・映像機器、新世代楽器、IT との関わりについても考察する。 洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器（道具）との関わりを実践的
授業概要
注:本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、 同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。 前半は日本音楽における歴史的な作品をテーマに、記譜法、楽器と奏法、演奏の場（社会）等の諸側面から特徴を考察する。次に日本の音楽界の現状を扱い、作曲家、演奏家、聴衆等について多角的に検討する。その後、受講生各自の研究課題に関わり、現代の日本音楽、国際的に様々な音楽種目に用いられる日本楽器の様相、メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げる。 音楽領域に留まるのではなく、他領域の受講生の参加を強く求め、芸術・文化・社会について多角的に議論したい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
文化的な側面において急速に国際化の進む時代であるからこそ、日本音楽に関して、歴史と音楽の種類、文化的、地域的背景の理解に努めるとともに、日常的に好奇心を高めること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士(学術)の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、授業内容は「2023 年度 前期」の16～30 に、 「2023 年度 後期」分が連なって記載されています。そこで「2023 年度 前期」の内容を参照してください。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上

[illegible]

科目名	作曲特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。
授業概要
授業は「対面授業」で行います。 具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
色々な形態の音楽作品に常に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして指導します。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	管弦楽作品の鑑賞と分析 1
2	管弦楽作品の鑑賞と分析 2
3	管弦楽作品の鑑賞と分析 3
4	管弦楽作品の鑑賞と分析 4
5	管弦楽作品の鑑賞と分析 5
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析 1
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析 2
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析 3
9	オペラの物語と音楽について
10	オペラの鑑賞と分析 1
11	オペラの鑑賞と分析 2
12	オペラの鑑賞と分析 3
13	オペラの鑑賞と分析 4
14	オペラの鑑賞と分析 5
15	オペラの鑑賞と分析 6
16	後期自由作曲について
17	作品制作、演習と添削
18	作品制作、演習と添削
19	作品制作、演習と添削
20	作品制作、演習と添削
21	作品制作、演習と添削
22	作品制作、演習と添削
23	作品制作、演習と添削
24	作品制作、演習と添削
25	作品制作、演習と添削
26	作品のプレゼンテーション
27	作品のプレゼンテーション
28	作品のプレゼンテーション

29	作品のプレゼンテーション
30	1年のまとめ

科目名	作曲特殊研究Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。
授業概要
授業は「対面授業」で行います。 具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
色々な形態の音楽作品に常に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品評価	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして指導します。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	管弦楽作品の鑑賞と分析 1
2	管弦楽作品の鑑賞と分析 2
3	管弦楽作品の鑑賞と分析 3
4	管弦楽作品の鑑賞と分析 4
5	管弦楽作品の鑑賞と分析 5
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析 1
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析 2
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析 3
9	オペラの物語と音楽について
10	オペラの鑑賞と分析 1
11	オペラの鑑賞と分析 2
12	オペラの鑑賞と分析 3
13	オペラの鑑賞と分析 4
14	オペラの鑑賞と分析 5
15	オペラの鑑賞と分析 6
16	後期自由作曲について
17	作品制作、演習と添削
18	作品制作、演習と添削
19	作品制作、演習と添削
20	作品制作、演習と添削
21	作品制作、演習と添削
22	作品制作、演習と添削
23	作品制作、演習と添削
24	作品制作、演習と添削
25	作品制作、演習と添削
26	作品のプレゼンテーション
27	作品のプレゼンテーション
28	作品のプレゼンテーション

29	作品のプレゼンテーション
30	1年のまとめ

科目名	音楽学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	津上 智実				
クラス名					

授業目的と到達目標
ヘンデルのオラトリオ《メサイア》を考える。数あるオラトリオ作品の中でも長年、世界の様々な場所で歌われ続けてきているヘンデルの《メサイア》を取り上げて、その構造と音楽的な特徴とを掴み、さらにその演奏史を俯瞰することで、音楽作品とは何か、作品の演奏とはどのような可能性を持っているのかを理解する。
授業概要
前期ではオラトリオの成立と発展を大きく掴み、ヘンデルのオラトリオ創作史を概観した上で、《メサイア》のテキストと音楽とについて、その構造と特徴とを明らかにする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
よく聴く、よく読む、よく考える。 折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週 90 分程度)。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業態度	30 %
議論への参加度	20 %
中間・期末レポート	50 %

教科書			
教科書1	『ヘンデル:メサイア HWV 56』小型スコア(ヴォーカル・スコアではなくオーケストラ譜付きのものを用意すること) (ベーレンライター社の新ヘンデル全集版があれば理想的だが、別の版でも可)		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『メサイア—理解と演奏のためのスタディガイド』		
出版社名	パナムジカ、2019 年	著者名	ヘルムート・リリング 著、菅野弘久 他訳
参考書名2	『ヘンデル：創造のダイナミズム』		
出版社名	春秋社、2009 年	著者名	ドナルド・バロウズ 編、藤江効子、小林裕子、三ヶ尻正 訳

科目名	音楽学作品研究	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	津上 智実				
クラス名					

授業目的と到達目標
ヘンデルのオラトリオ《メサイア》を考える。数あるオラトリオ作品の中でも長年、世界の様々な場所で歌われ続けてきているヘンデルの《メサイア》を取り上げて、その構造と音楽的な特徴とを掴み、さらにその演奏史を俯瞰することで、音楽作品とは何か、作品の演奏とはどのような可能性を持っているのかを理解する。
授業概要
後期では多様なエディションや録音資料を活用して《メサイア》演奏の変遷を辿り、音楽作品とその演奏の可能性について考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
よく聴く、よく読む、よく考える。 折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週 90 分程度)。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業態度	30 %
議論への参加度	20 %
中間・期末レポート	50 %

教科書			
教科書1	『ヘンデル:メサイア HWV 56』小型スコア(ヴォーカル・スコアではなくオーケストラ譜付きのものを用意すること) (ベーレンライター社の新ヘンデル全集版があれば理想的だが、別の版でも可)		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『メサイア—理解と演奏のためのスタディガイド』		
出版社名	パナムジカ、2019 年	著者名	ヘルムート・リリング 著、菅野弘久 他訳
参考書名2	『ヘンデル：創造のダイナミズム』		
出版社名	春秋社、2009 年	著者名	ドナルド・バロウズ 編、藤江効子、小林裕子、三ヶ尻正 訳

参考書名3	『メサイアは何を歌うのか』		
出版社名	『メサイアは何を歌うのか』	著者名	家田足穂
参考書名4	Handel, Messiah (Cambridge music handbooks)		
出版社名	Cambridge University Press, 1991 年	著者名	Donald Burrows
参考書名5	『ヘンデル』		
出版社名	東京書籍、1991 年	著者名	クリストファー・ホグウッド著、三澤寿喜訳

科目名	音楽学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標	
前期	「アメリカ合衆国の音楽」というテーマで、アメリカ合衆国の音楽の独自性について考える。
後期	「東ヨーロッパの音楽」というテーマで、ポーランド、チェコ、ハンガリーなどの音楽の特質について考える。
授業概要	
前期	アメリカ合衆国の音楽は、西洋音楽のうちでも、ヨーロッパとは異なった特徴を持つ。それを生み出している歴史的背景や、ポピュラー音楽との関わり合いも視野に入れながら、アメリカ合衆国の音楽の独自性について考える。
後期	東ヨーロッパの音楽は、ドイツやイタリアなどとは異なった独自性を持っている。ショパンやリストのように東ヨーロッパの出身でありながらフランスなどで活躍した作曲家の音楽も含めて、東ヨーロッパの音楽の特質について考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
常に音楽の実感を持ちながら考えること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
期末レポート	100

教科書			
教科書1	使用しない。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	植民地時代の宗教音楽と世俗音楽
2	アメリカ合衆国独立宣言(1776 年)以降の音楽状況
3	土地固有の伝統と育成された伝統
4	ヨーロッパのロマン主義の影響
5	アイヴズの音楽
6	古典的な音楽、ロマン的な音楽への反動(1)
7	古典的な音楽、ロマン的な音楽への反動(2)
8	1920 年代のコーブランド
9	カウエルの「新音楽」、ヴァレーズ
10	大恐慌以後の音楽(1) コーブランドを中心に
11	大恐慌以後の音楽(2)
12	新しいメディアと音楽
13	1930 年代から 1940 年代初期の音楽(トムソン、ハリス、ブリッツスタイン)
14	ポピュラー音楽と芸術音楽
15	第二次世界大戦後の諸潮流
16	ショパンとポーランド(1)
17	ショパンとポーランド(2)
18	リストとハンガリー(1)
19	リストとハンガリー(2)
20	18 世紀までの東ヨーロッパの音楽状況(1)
21	18 世紀までの東ヨーロッパの音楽状況(2)
22	スメタナとチェコ
23	ドヴォルザーク(1)

24	ドヴォルザーク(2)
25	ルーマニア エネスクを中心として
26	バルトーク
27	バルトークとコダーイ
28	シマノフスキー
29	マルティヌー
30	20 世紀後半以降の東ヨーロッパの音楽

科目名	音楽学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標	
前期	「アメリカ合衆国の音楽」というテーマで、アメリカ合衆国の音楽の独自性について考える。
後期	「東ヨーロッパの音楽」というテーマで、ポーランド、チェコ、ハンガリーなどの音楽の特質について考える。
授業概要	
前期	アメリカ合衆国の音楽は、西洋音楽のうちでも、ヨーロッパとは異なった特徴を持つ。それを生み出している歴史的背景や、ポピュラー音楽との関わり合いも視野に入れながら、アメリカ合衆国の音楽の独自性について考える。
後期	東ヨーロッパの音楽は、ドイツやイタリアなどとは異なった独自性を持っている。ショパンやリストのように東ヨーロッパの出身でありながらフランスなどで活躍した作曲家の音楽も含めて、東ヨーロッパの音楽の特質について考える。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
常に音楽の実感を持ちながら考えること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
期末レポート	100

教科書			
教科書1	使用しない。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	植民地時代の宗教音楽と世俗音楽
2	アメリカ合衆国独立宣言(1776 年)以降の音楽状況
3	土地固有の伝統と育成された伝統
4	ヨーロッパのロマン主義の影響
5	アイヴズの音楽
6	古典的な音楽、ロマン的な音楽への反動(1)
7	古典的な音楽、ロマン的な音楽への反動(2)
8	1920 年代のコーブランド
9	カウエルの「新音楽」、ヴァレーズ
10	大恐慌以後の音楽(1) コーブランドを中心に
11	大恐慌以後の音楽(2)
12	新しいメディアと音楽
13	1930 年代から 1940 年代初期の音楽(トムソン、ハリス、ブリッツスタイン)
14	ポピュラー音楽と芸術音楽
15	第二次世界大戦後の諸潮流
16	ショパンとポーランド(1)
17	ショパンとポーランド(2)
18	リストとハンガリー(1)
19	リストとハンガリー(2)
20	18 世紀までの東ヨーロッパの音楽状況(1)
21	18 世紀までの東ヨーロッパの音楽状況(2)
22	スメタナとチェコ
23	ドヴォルザーク(1)

24	ドヴォルザーク(2)
25	ルーマニア エネスクを中心として
26	バルトーク
27	バルトークとコダーイ
28	シマノフスキー
29	マルティヌー
30	20 世紀後半以降の東ヨーロッパの音楽

科目名	音楽史学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	津上 智実				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
前期では、音楽史におけるバロック時代の幕開けを告げるアルトゥージ＝モンテヴェルディ論争と「セコンダ・ブラッティカ（第二の作法）」から説き起こして、モンテヴェルディの3大オペラ《オルフェオ》（1607）、《ウリッセの祖国帰還》（1639）、《ポッペアの戴冠》（1642）を中心に論じる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
よく聴く、よく読む、よく考える。 折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週 90 分程度)。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業態度	30
ミニ・レポート	20
中間・期末レポート	50

教科書			
教科書1	特に使用しない		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『裏声歌手のモンテヴェルディ偏愛主義』		
出版社名	アルテスパブリッシング、2018 年	著者名	彌勒忠史
参考書名2	『対位法の変動・新音楽の胎動、ルネサンスからバロックへ、転換期の音楽理論』		
出版社名	春秋社、2008 年	著者名	東川清一編
参考書名3	『モンテヴェルディ』		
出版社名	『モンテヴェルディ』	著者名	ヴルフ・コーノルト著。津上智実訳
参考書名4	『モンテヴェルディ』		
出版社名	みすず書房、1983 年	著者名	デニス・アーノルド著、後藤暢子、戸口幸策訳

参考 URL
特記事項
教員実務経験

[illegible]

科目名	音楽史学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	津上 智実				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
後期では、ヨーロッパにおけるバロック・オペラの系譜を概観して、フランスのコメディ・バレとナポリ派オペラの典型を理解した上で、ヘンデルのオペラ作品、中でも《ジュリオ・チェザレ》と《セルセ》を中心に論じる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
よく聴く、よく読む、よく考える。 折々に小さな課題を出すので、主体的に積極的に取り組むこと(週 90 分程度)。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業態度	30
ミニ・レポート	20
中間・期末レポート	50

教科書			
教科書1	特に使用しない		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『新イタリア・オペラ史』		
出版社名	音楽之友社, 2015 年	著者名	水谷彰良
参考書名2	『ヘンデル:創造のダイナミズム』		
出版社名	春秋社, 2009 年	著者名	ドナルド・バロウズ編、藤江効子、小林裕子、三ヶ尻正訳
参考書名3	『ヘンデル』(作曲家・人と作品シリーズ)		
出版社名	『ヘンデル』(作曲家・人と作品シリーズ)	著者名	三澤寿喜
参考書名4	『ヘンデル、オペラ・セリアの世界』		
出版社名	春秋社, 2005 年	著者名	ウィントン・ディーン著、藤江効子、小林裕子訳

参考書名5	『ヘンデル』		
出版社名	東京書籍、1991 年	著者名	クリストファー・ホグウッド著、三澤寿喜訳

参考 URL
特記事項
教員実務経験

[illegible]

科目名	音楽芸術学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業概要
音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
西洋において音楽は古来、学問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各自で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価（前期末レポートを含む）	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	必要があれば、授業中に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

科目名	音楽芸術学特論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					

授業目的と到達目標
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。
授業概要
音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
西洋において音楽は古来、学問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各自で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
総合評価(年度末レポートを含む)	100

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	必要があれば、授業中に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

